

## マニュアル

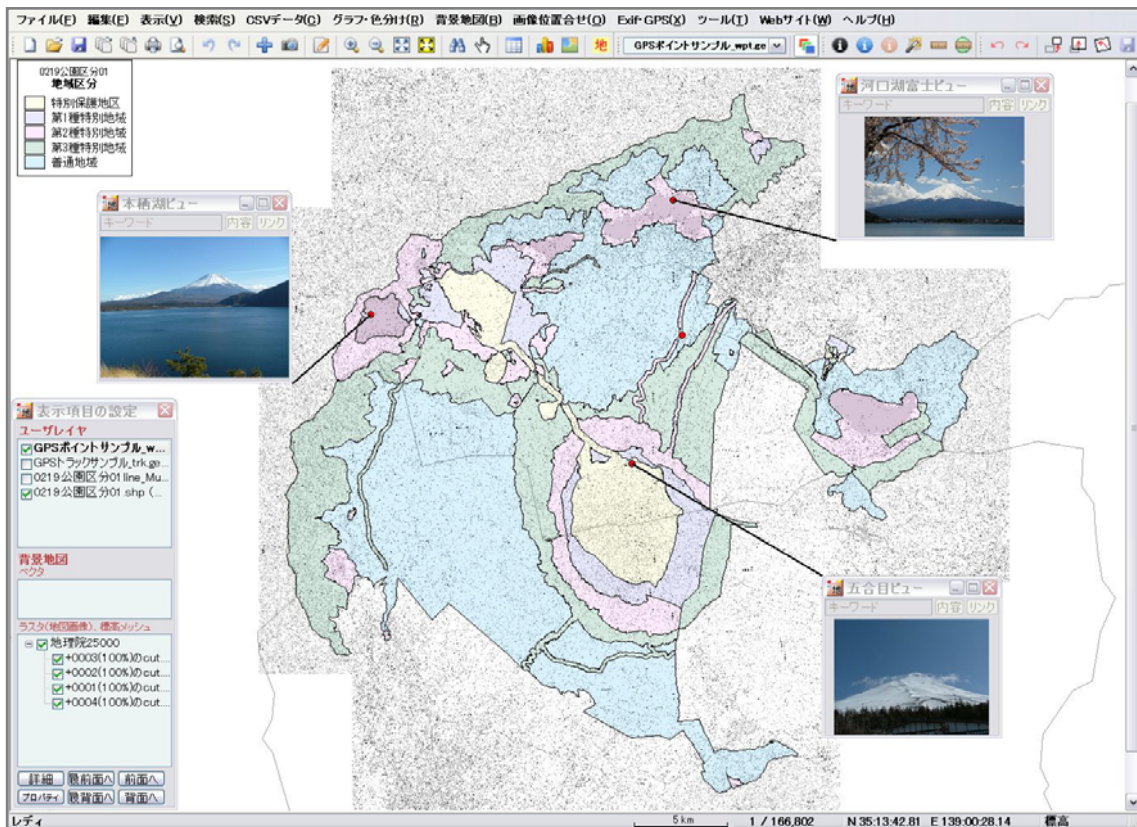
### 1 本マニュアルの目的・地図太郎で出来ること

平成 18 年に設定した富士箱根伊豆国立公園(富士山地域)に係る区域線等の基礎情報を GIS データ化し網羅的に把握することで、公園計画等の点検や変更の基礎資料とし、適切な保全計画の立案に資することを目的として、環境省自然環境局に導入されている地図太郎自然環境局版にて「地理院地図」を背景に引き、本業務で作成したデータをユーザーレイヤに取り込み、表示・編集する手順をとりまとめたものである。

合わせて、環境省公園管理担当職員として知っておくべき操作として、巡視に行き、記録を撮り、報告書作成の一連の流れを要点もまとめた。

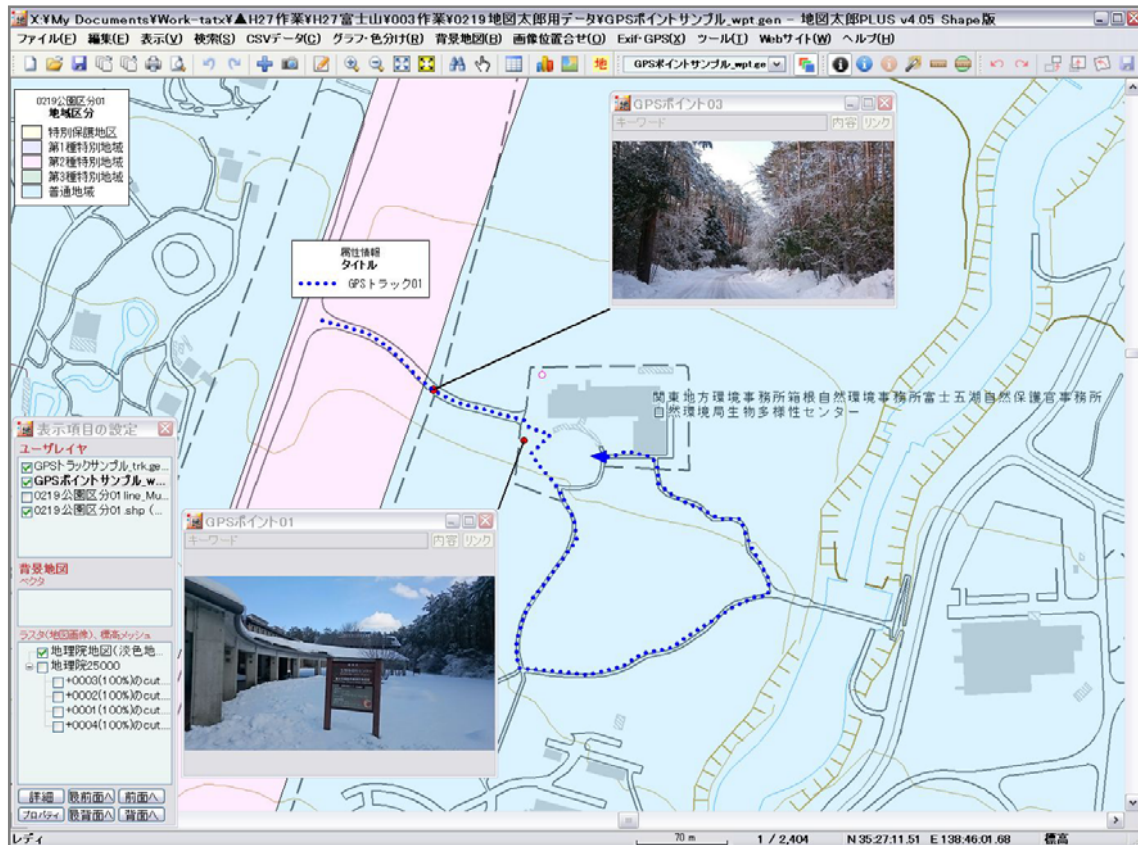
#### 地図太郎で出来ることの例①

国立公園の背景地図の上で、富士山のビューポイントを落とし、吹き出しで写真を取り込んだ事例



## 地図太郎で出来ることの例②

GPS 機器を使用して違反の正確な位置、希少種の位置などを公園計画図上に落とせる  
※図は、多様性センター周辺で取得した GPS データと写真を使用した参考事例



## 2 基本操作

<準備>

### (1) パソコン設定の確認

ユーザーズガイド(2015. 10. 22 版) 10～12 ページ参照(別添参照)



### (2) データのコピー

作成したデータ以下のとおり

使用するパソコン内の所定の場所にフォルダ単位でコピーして使用する

<データ一覧>

seq	データ項目	データの種類	内容
1	01保護計画区域	ポリゴン	公園計画図の「特別保護地区」、「第1種特別地域」・・・「普通地域」の区域
2	02保護計画区域(境界線)	ライン	上記の境界線
3	03保護計画(施設)	ポイント	公園計画図の「植生復元施設」の地点位置
4	04利用計画(施設)	ポイント	公園計画図の「集団施設地区」、「園地」・・・地点位置
5	05利用計画(車道)	ライン	公園計画図の「車道」位置
6	06利用計画(歩道)	ライン	公園計画図の「歩道」位置
7	07利用計画(運輸施設)	ライン	公園計画図の「船舶運輸施設」、「索道」位置
8	08生物多様性情報	ポイント・ポリゴン	生物多様性センターより貸与された貴重種情報および富士五湖及び周囲の浜における植生状況
9	09現在の公園事業施設位置	ポイント・ライン	事業地図情報
10	10歩道管理者情報	ライン	山梨県地域森林計画図より抽出した歩道位置と管理者情報
11	11その他文献情報	ポイント	いきものログより収集した文献の位置情報
12	12背景地理院白地図	画像	公園計画図範囲に該当する国土地理院電子地形図25000画像

名前 ▲	種類
01 保護計画区域	ファイル フォルダ
02 保護計画区域(境界線)	ファイル フォルダ
03 保護計画(施設)	ファイル フォルダ
04 利用計画(施設)	ファイル フォルダ
05 利用計画(車道)	ファイル フォルダ
06 利用計画(歩道)	ファイル フォルダ
07 利用計画(運輸施設)	ファイル フォルダ
08 生物多様性情報	ファイル フォルダ
09 現在の公園事業施設位置	ファイル フォルダ
10 歩道管理者情報	ファイル フォルダ
11 その他文献情報	ファイル フォルダ
12 背景地理院白地図	ファイル フォルダ

＜データ格納先＞

X X

＜データコピー先＞

個人 PC に保存し(場所はどこでも可。例：デスクトップ、ドキュメント)、作業を行う

### (3) データの管理方法

(標準のフォルダ構成、ネットワーク上で基本管理・作業は個人 PC で実施の方法など)

・管理者の指示にしたがうこと

(参照) 基本的な設定(自習書から引用)

## (4) データの管理、地図太郎 PLUS 仕様他

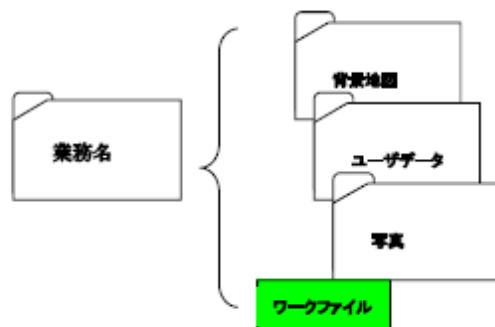
### 1) 整理整頓 (データはフォルダを作成してまとめて管理します。)

GIS ソフト(地図太郎 PLUS)での作業は、取り扱うファイルが多数になります。業務ごとにフォルダを作成して、その中にデータを保存するフォルダを作り整理整頓します。

図のような「業務名」フォルダにデータをまとめておくとフォルダごとのパソコンに移動しても、地図太郎 PLUS のインストールされたパソコンであればすぐに利用できます。

ワークファイルは「業務名」フォルダ直下に保存します。

バックアップ時には、「業務名」フォルダごとデータを取ります。



### 2) 利用するパソコンのスペック

できるだけ処理能力の高い、メモリを多く積んであるものをお勧めします。

例 64bitOS メモリ 8G 程度から

本ソフトウェアはメモリに全てのデータを取り込んで処理します。パソコンの搭載メモリ量が少ない場合は、必要最小限のデータを読み込むようにする必要がありますので、使用するパソコンで処理できる読み込み量を試しながらお使いください。必要に応じデータを分けて読み込み、不要なデータは読み込まないようにしてください。

大きな画像データはメモリの確保ができない場合があります。

その場合は、分割された画像を入手してください。

### 3) 地図太郎 PLUS は位置情報を経緯度で取扱います。

### 4) 文字コードは Shift\_JIS コードのみに対応しています。

### 5) ローカル PC 内にデータを置くようにしてください。

仮想ドライブ・クラウド上・ネットワーク上のデータには直接アクセスできない場合があります。



### 3 事例

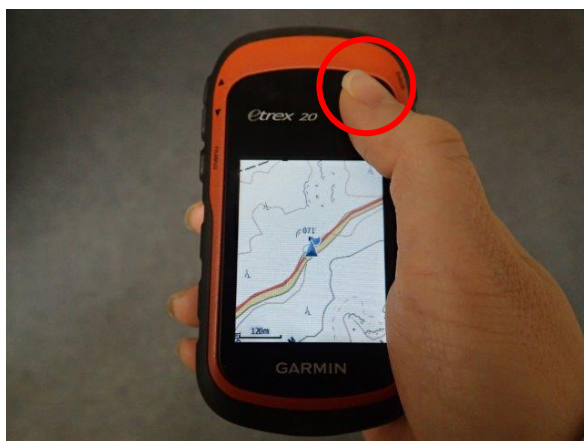
#### (1) 公園内巡視中に違反を発見。上部機関に報告する書類作成を行う

##### <流れ>

- ① GPS 機器を使い違反場所を記録する(ウェイポイントの設定)
- ② デジタルカメラで状況を撮影
- ③ PC にデータ (GPX データ、JPEG) を落とす
- ④ 地図太郎を起動
- ⑤ 背景地図・公園計画図を開く
- ⑥ 公園計画図に正確な位置を落とす
- ⑦ デジタルカメラで撮影した状況写真を地図上に表示する
- ⑧ 作成したデータを画像として出力
- ⑨ 作成したデータを印刷する
- ⑩ 報告書の添付資料として、上部機関に報告する

##### <操作手順詳細>

- ① GPS 機器を使い違反場所を記録する(ウェイポイントの設定)



該当箇所でクリックスティック(赤丸)を長押し



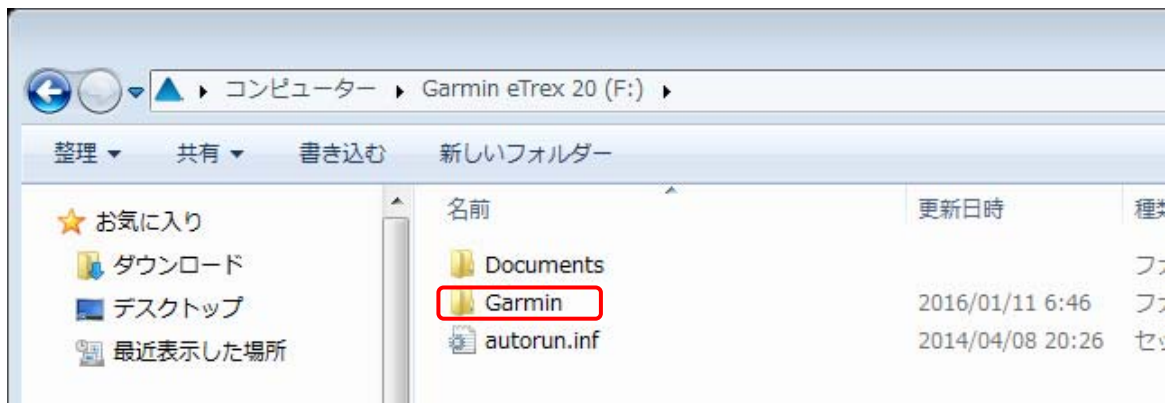
ウェイポイントが登録される

- ② デジタルカメラで状況を撮影・PC にデータを落とす
  - 近景／遠景両方撮影
- ③ PC にデータを落とす
  - PC に GPS 付属の USB ケーブルで GPS 機器を接続

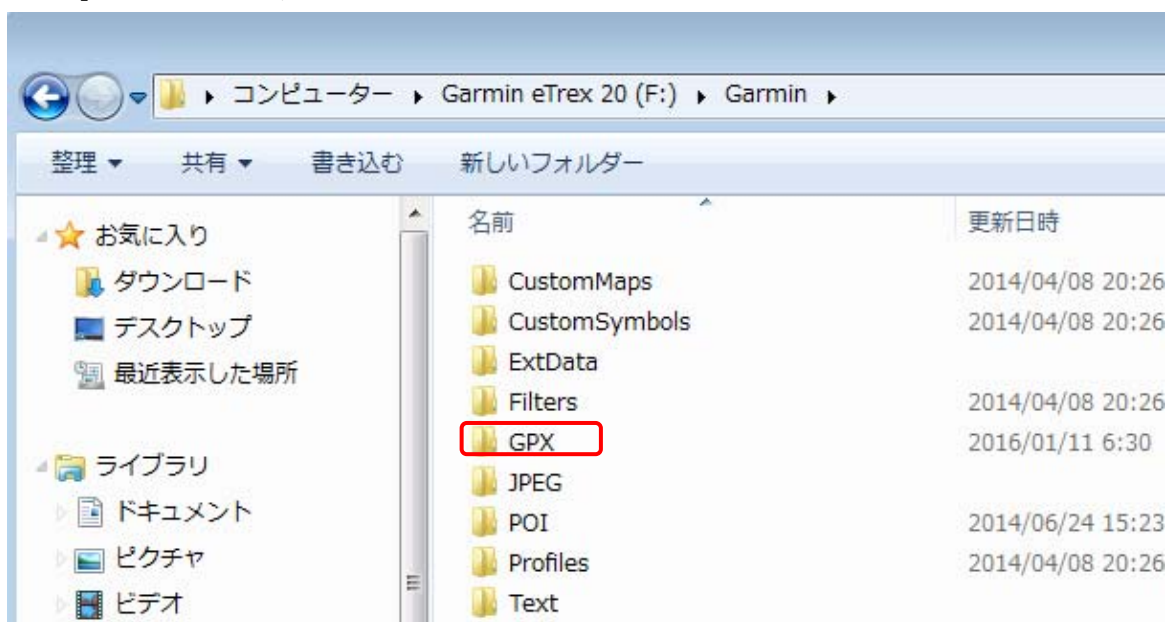
「Garmin eTrex」をダブルクリック



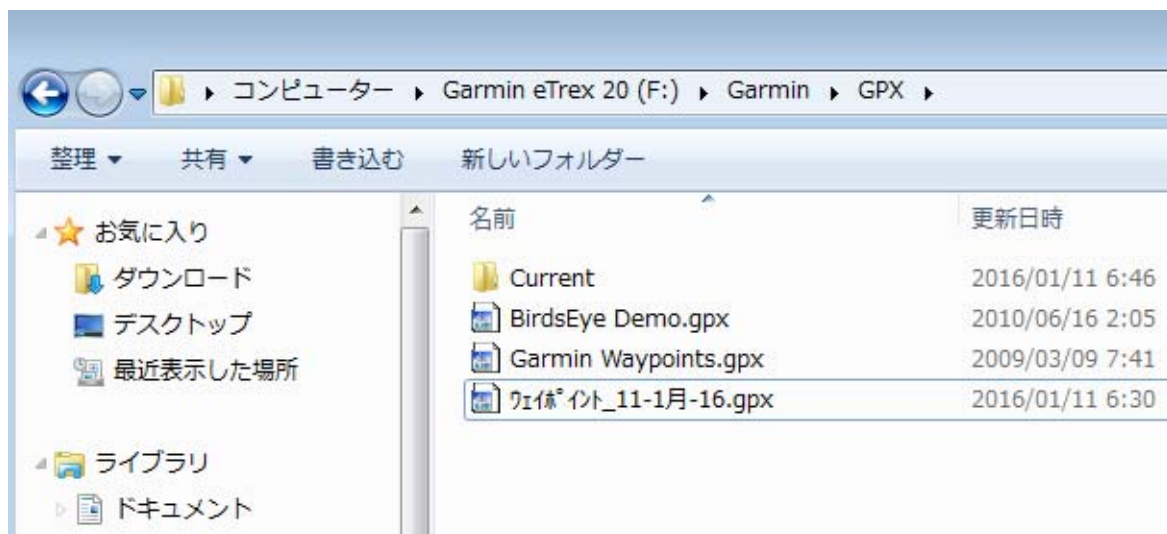
「Garmin」をダブルクリック



「GPX」をダブルクリック



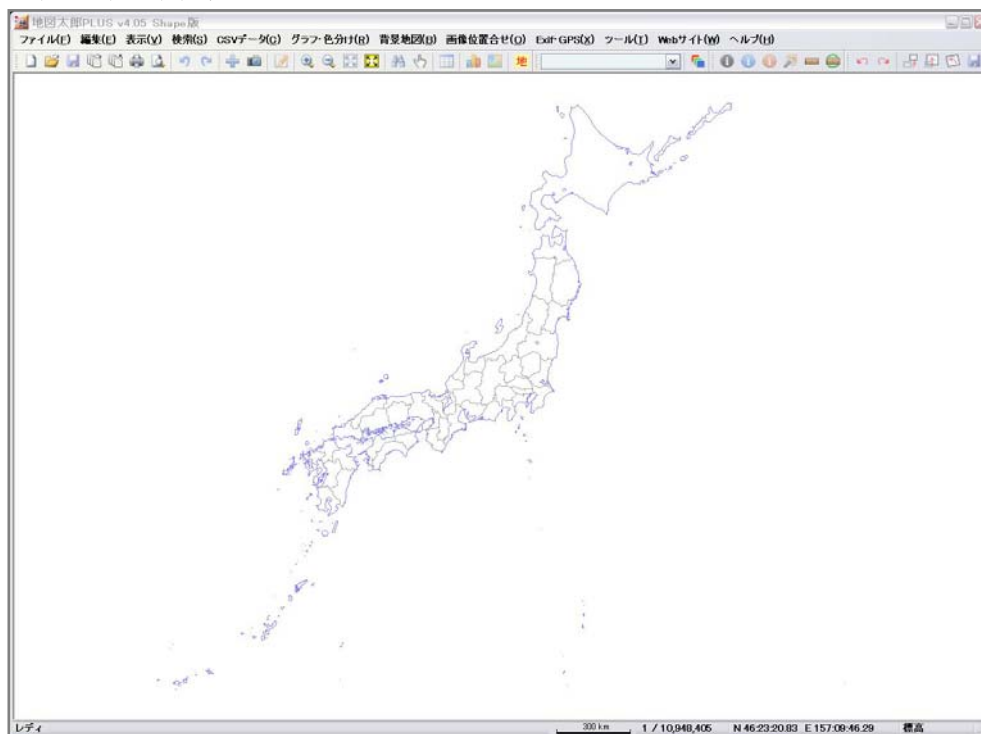
該当する gpx ファイルを切り取り、PC へ落とす



#### ④ 地図太郎を起動

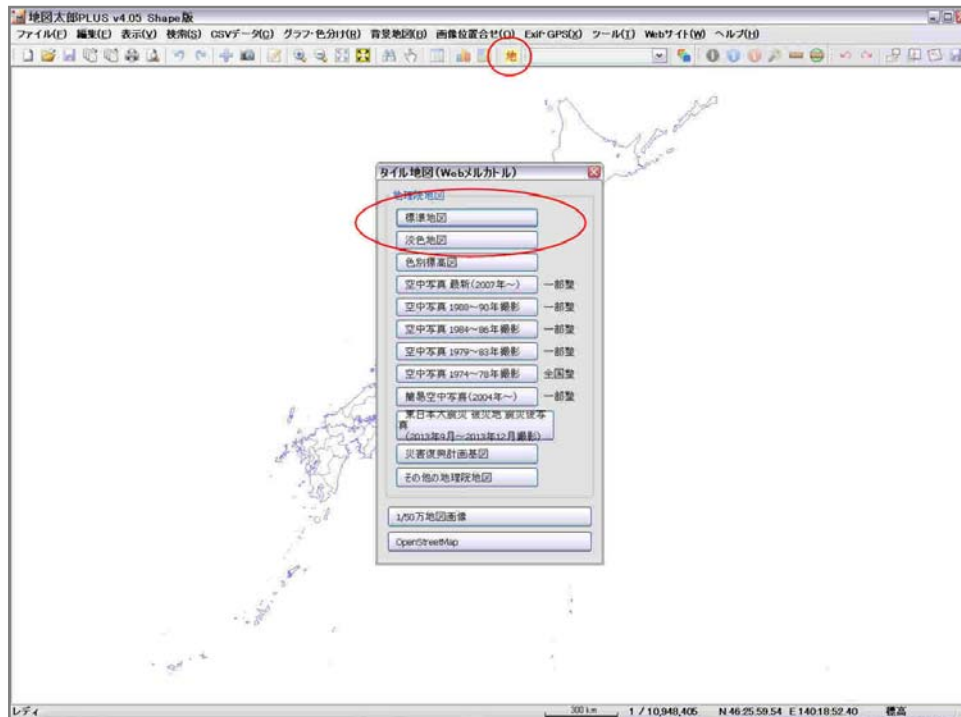
- 各事務所に配布されている地図太郎 USB スティックを PC に差す
- PC にある「地図太郎 PLUS\_Shape 版」フォルダ内の「ChizuTaroPlus\_shp\_D\_e.exe」をクリックして地図太郎を起動

地図太郎起動画面

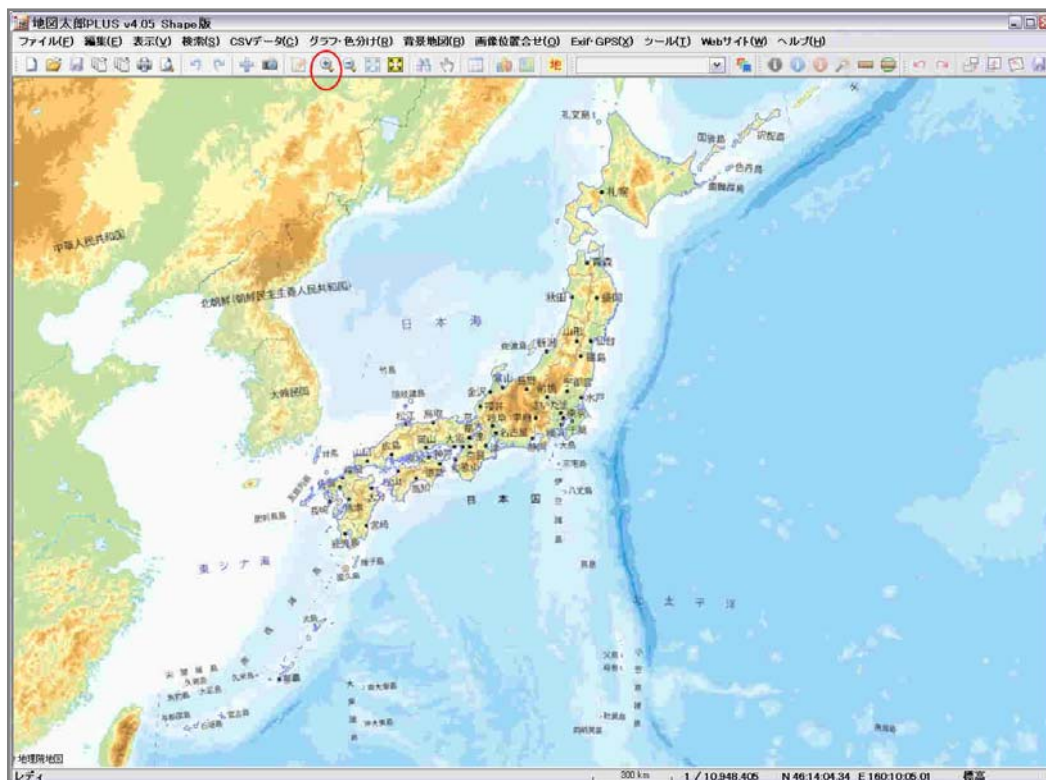


⑤ 背景地図(国土地理院地図)・公園計画図を読み込む

- 背景地図(国土地理院地図)を開く  
「タイル地図を開く」を選択し、「地理院地図」のどちらかを選び、「OK」で戻る

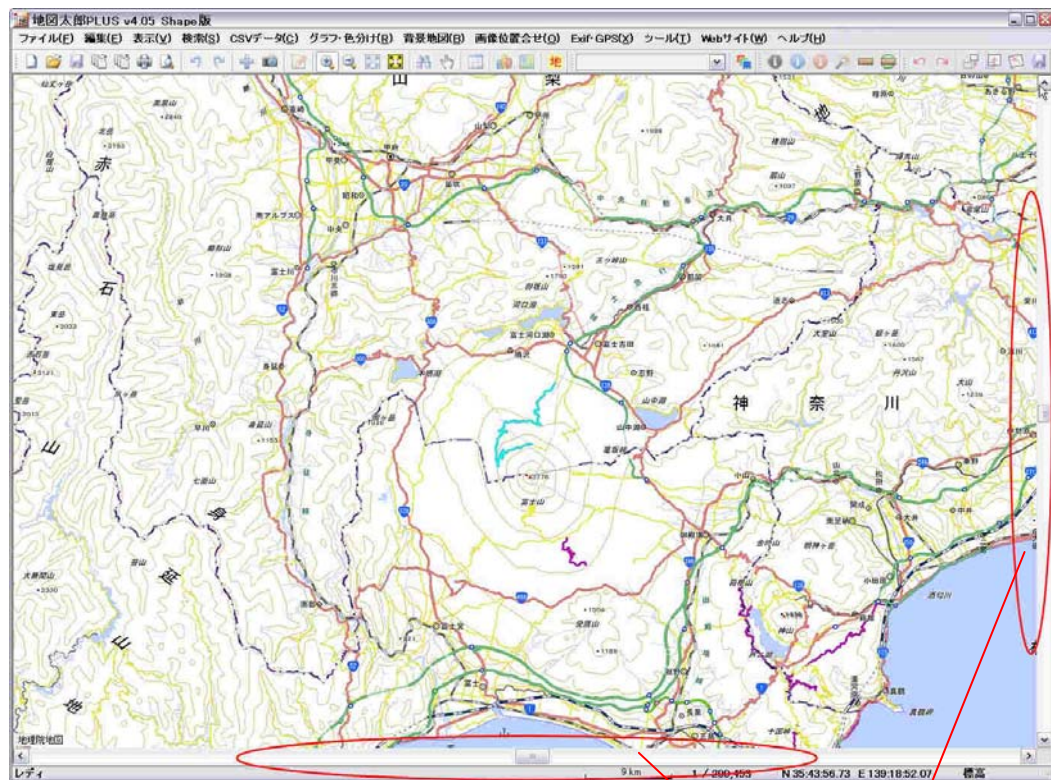


はじめに日本全国の範囲が表示されるが、拡大と移動で、富士山地域の背景図が表示できる





マウス操作でも、拡大・縮小・移動は可能

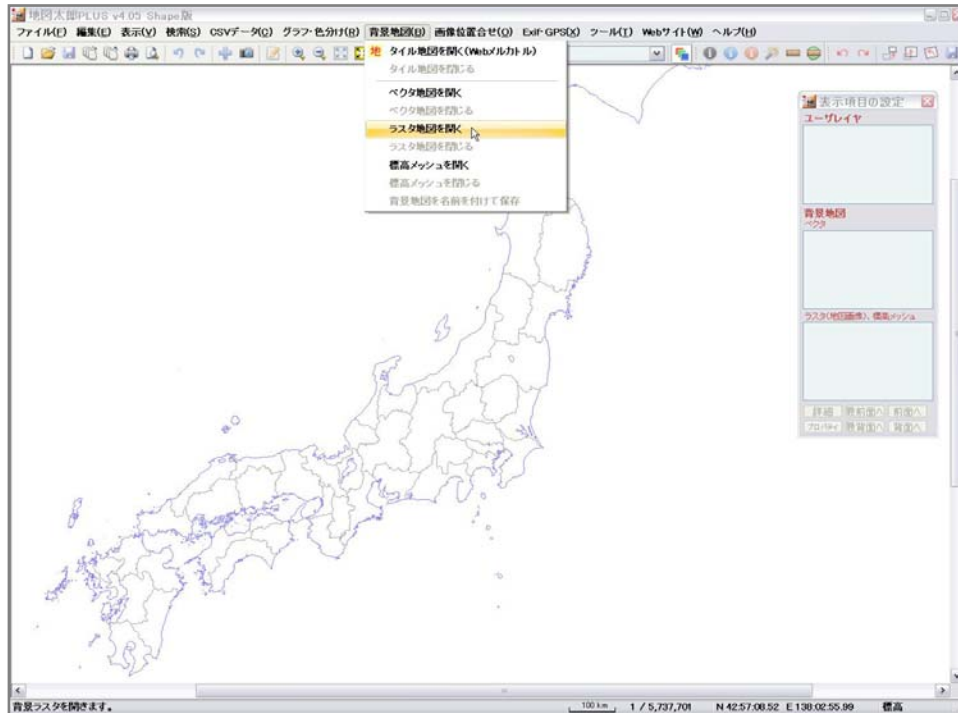


移動

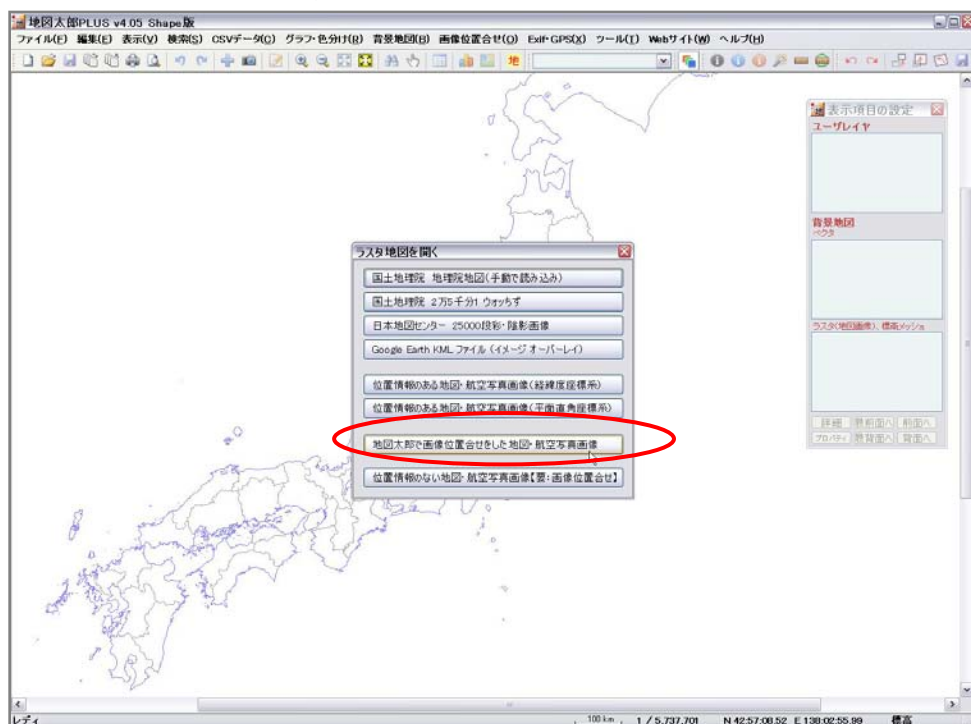
### ※オフライン(ネットワーク環境を使用しない場合)

通常は上記のオンライン地図を使用するが、臨時にネットワーク環境を使用しない場合、公園計画図範囲に該当する国土地理院電子地形図 25000 画像を使う  
(使用した国土地理院電子地形図は平成 27 年 11 月 11 日調製)

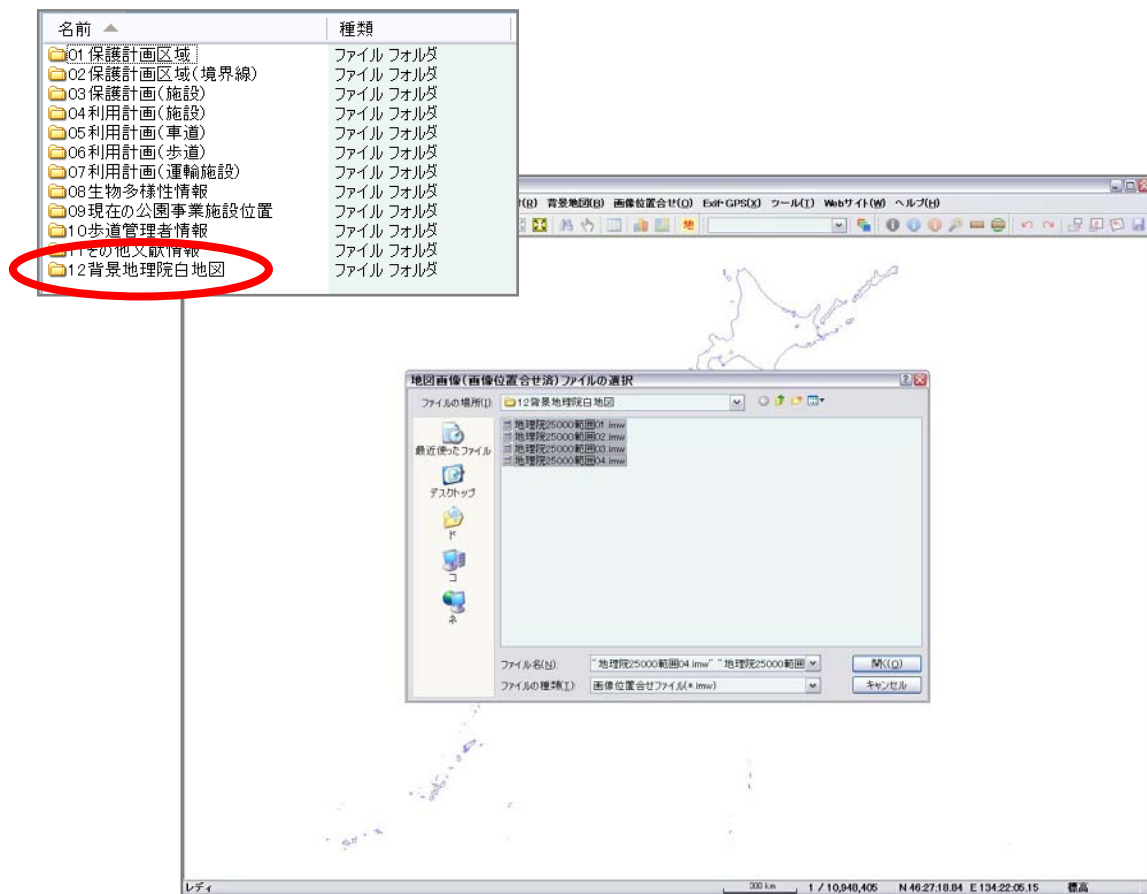
「背景地図」から「ラスタ地図を開く」を選択



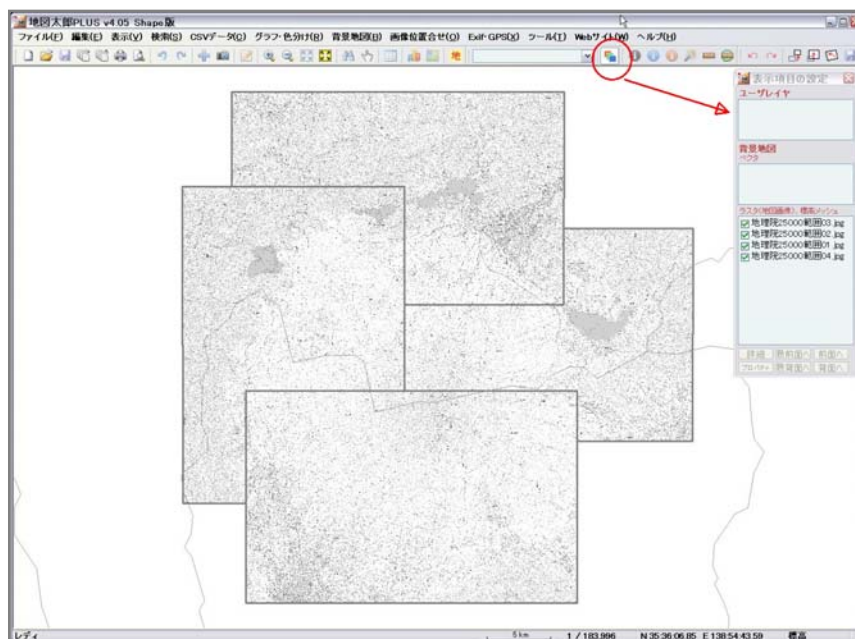
続いて「地図太郎で画像位置合わせをした地図...」を選択



続いて「12 背景地理院白地図」フォルダよりファイルを選択

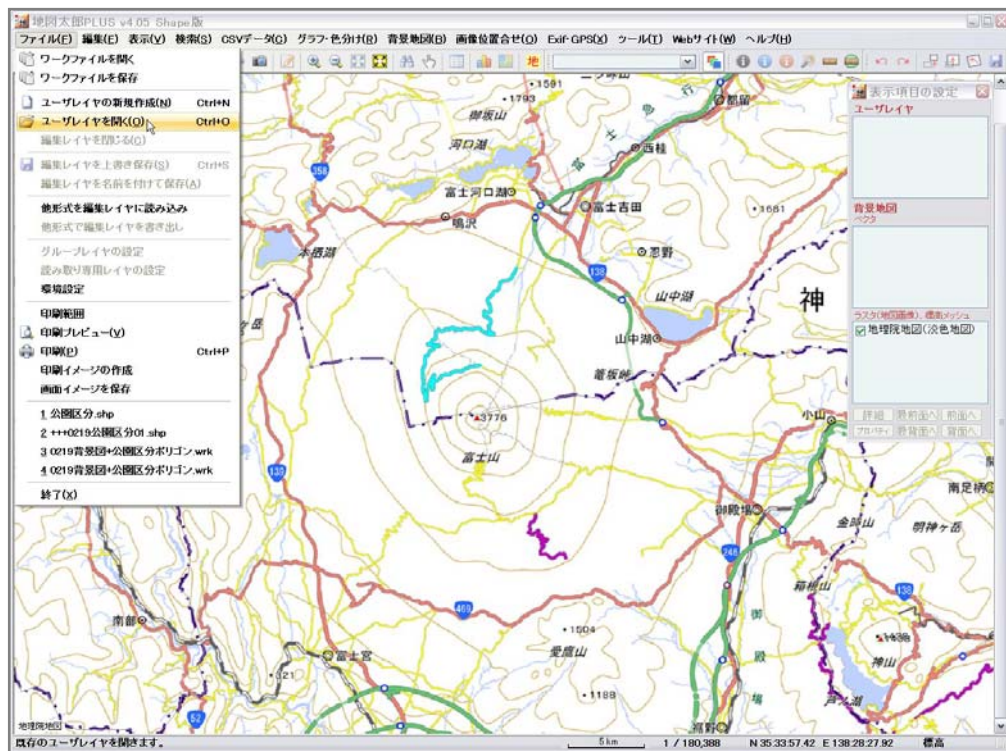


公園計画図範囲に該当する国土地理院電子地形図 25000 画像が表示される  
「表示項目の設定」を開くと、表示されているファイルを確認できる

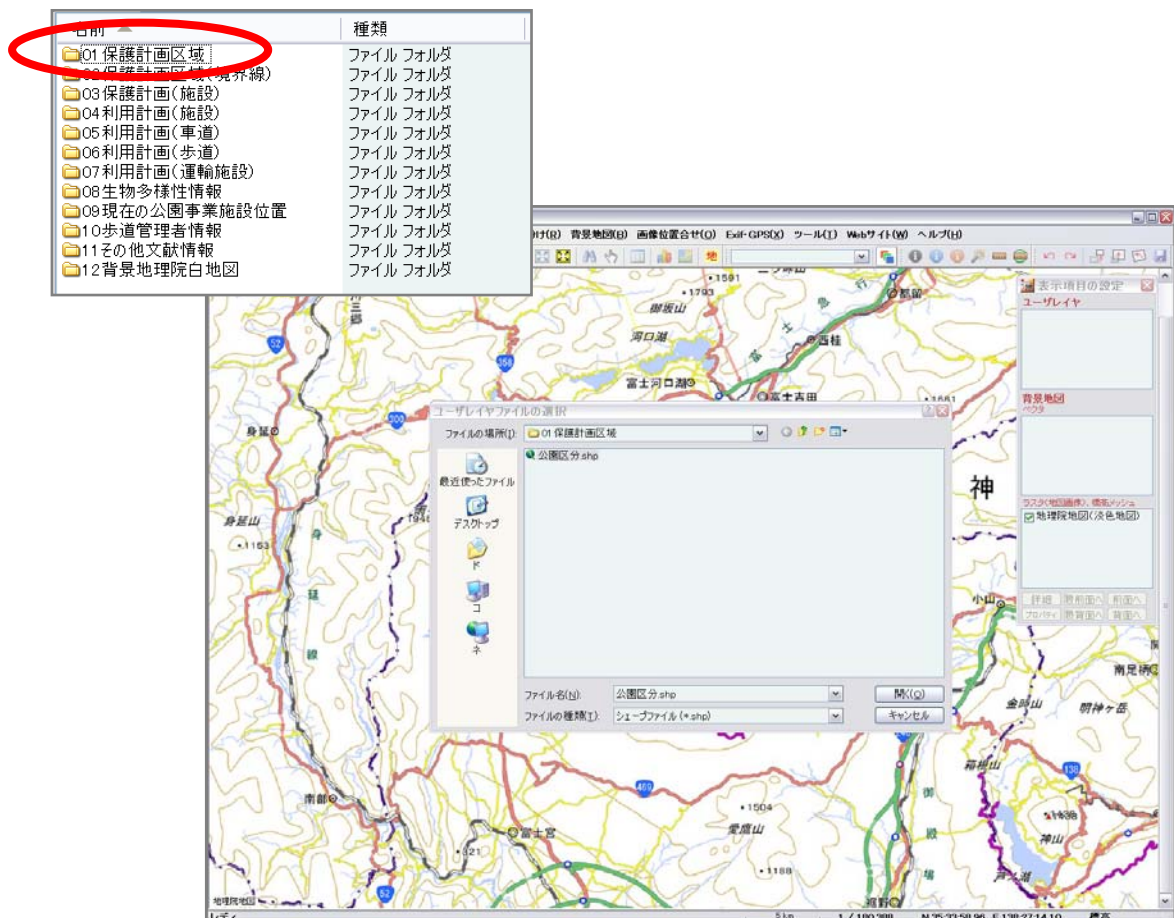




- 公園計画図を開く  
「ファイル」より「ユーザレイヤを開く」を選択

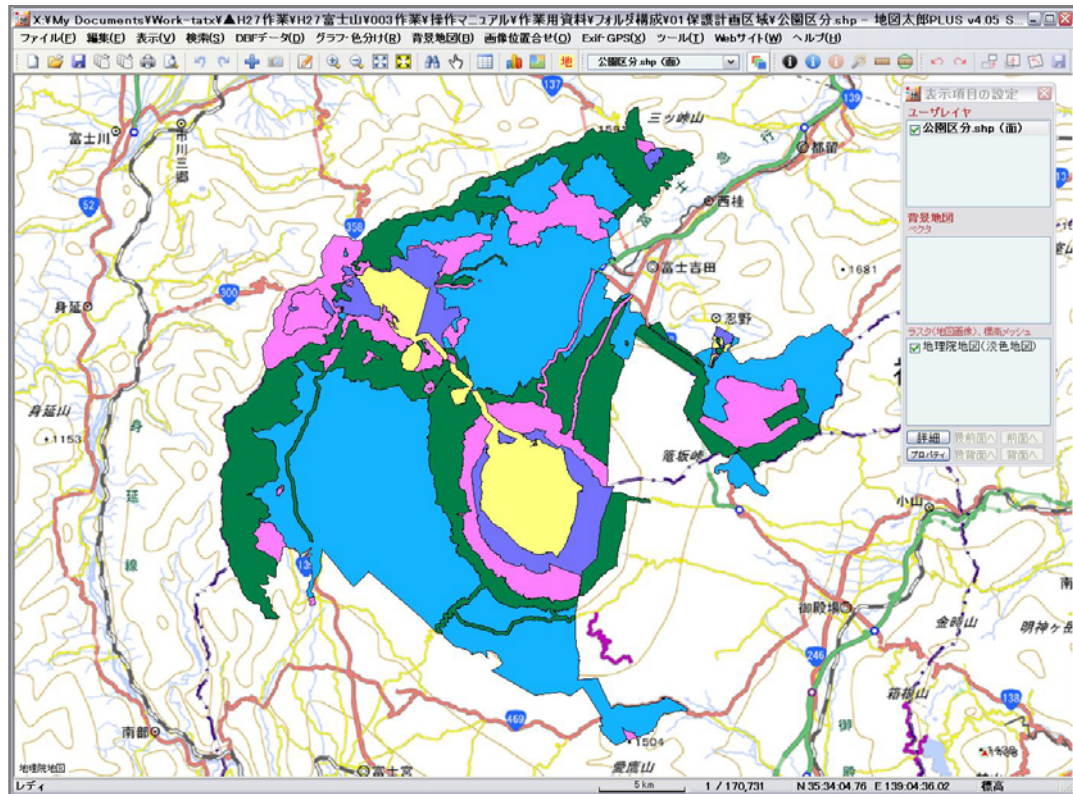


続いて「01 保護計画区域」フォルダよりファイルを選択

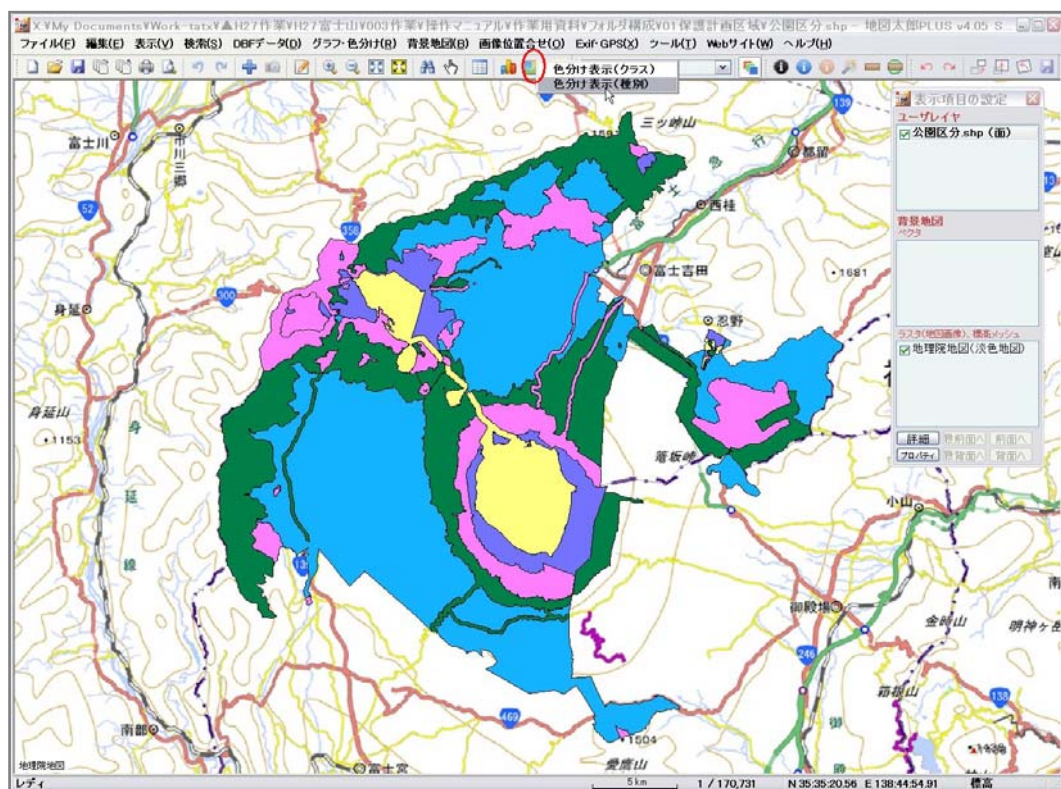




公園計画図の「特別保護地区」、「第1種特別地域」～「普通地域」の区域が表示される

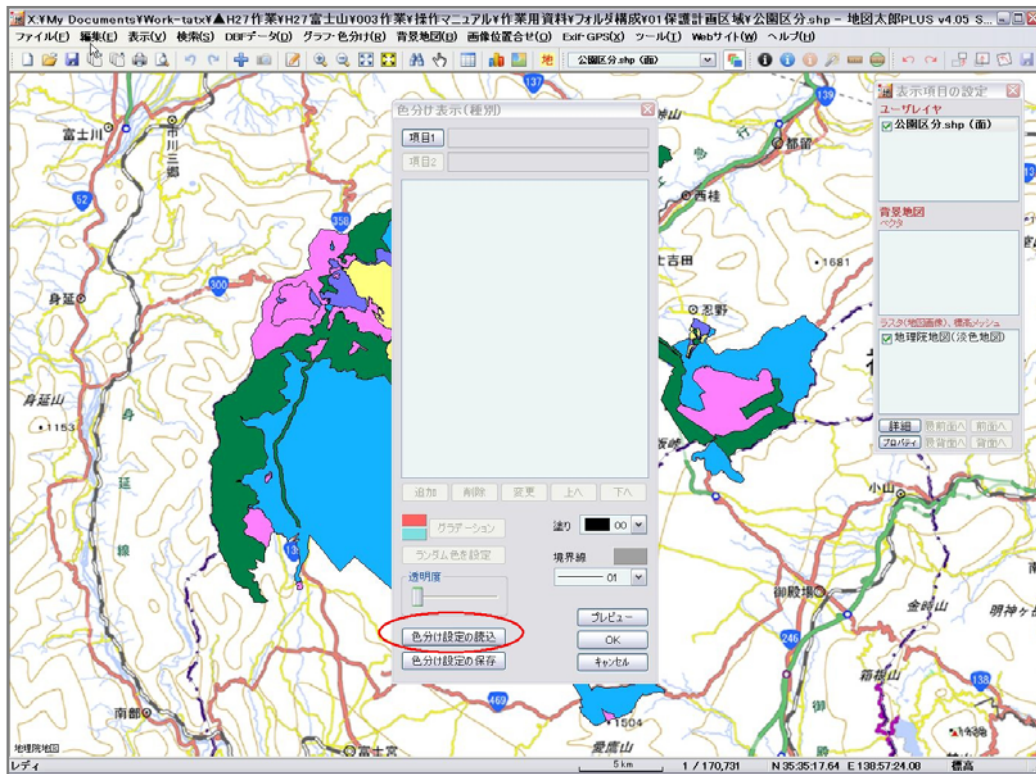


- 表示色を見やすく変更する  
「色分け表示」から「色分け表示種別」を選択

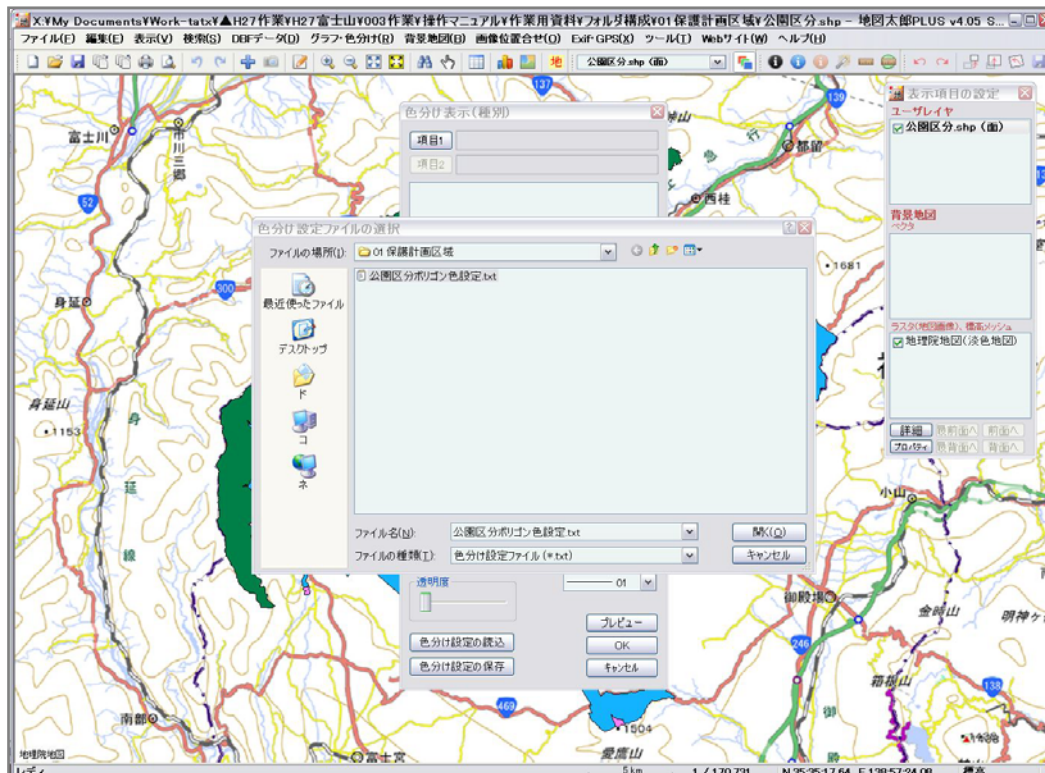




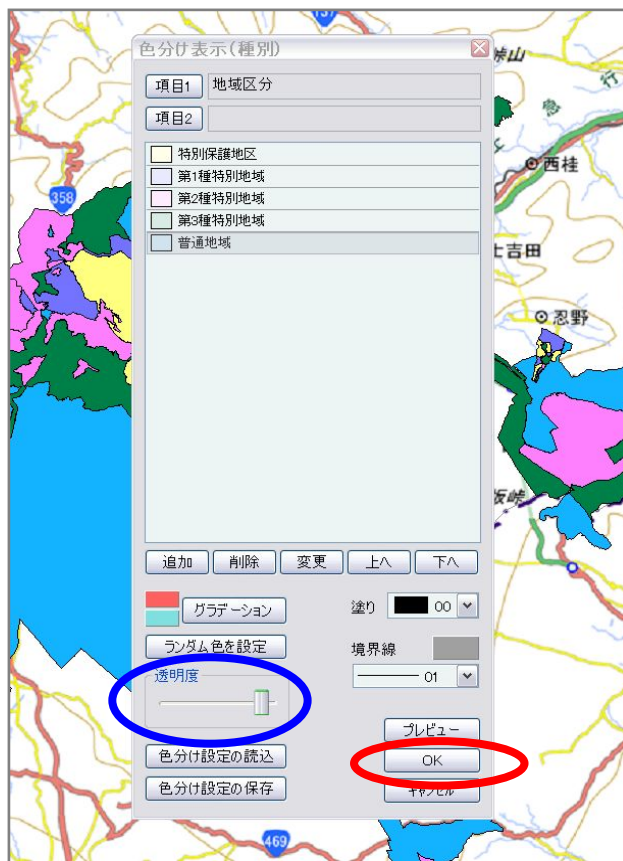
続いて「色分け設定の読込」を選択



「01 保護計画区域」フォルダ内の「公園区分ポリゴン色設定.txt」を選択

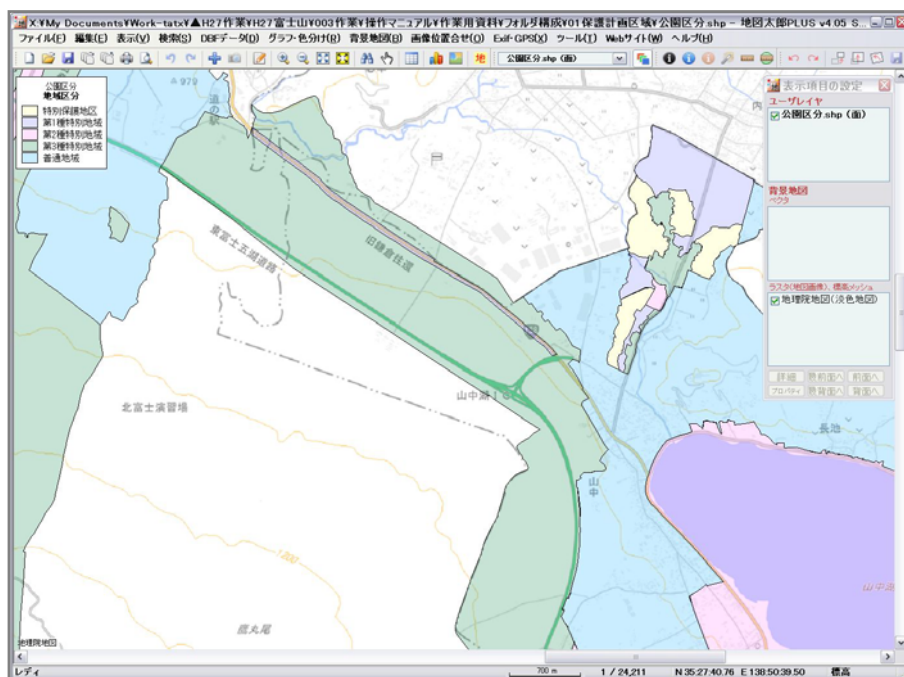


「OK」を選択



背景図(地理院地図)を透過して確認できるようになる

また、先の設定で、「透明度」をスライドさせることにより、透過度合も変更可能

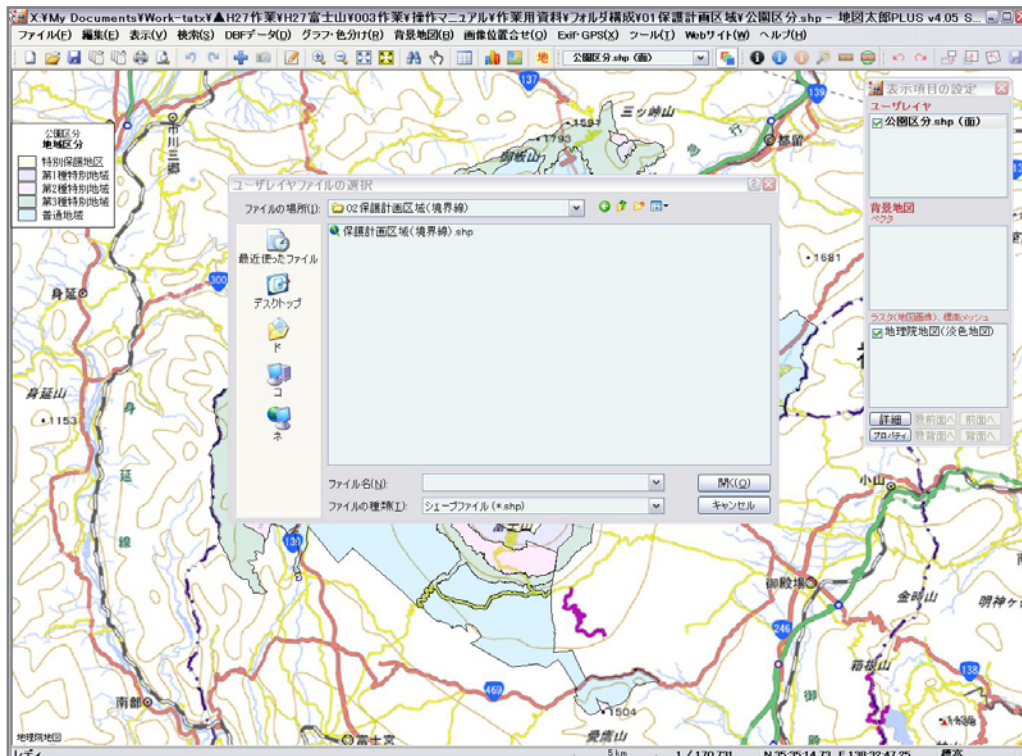




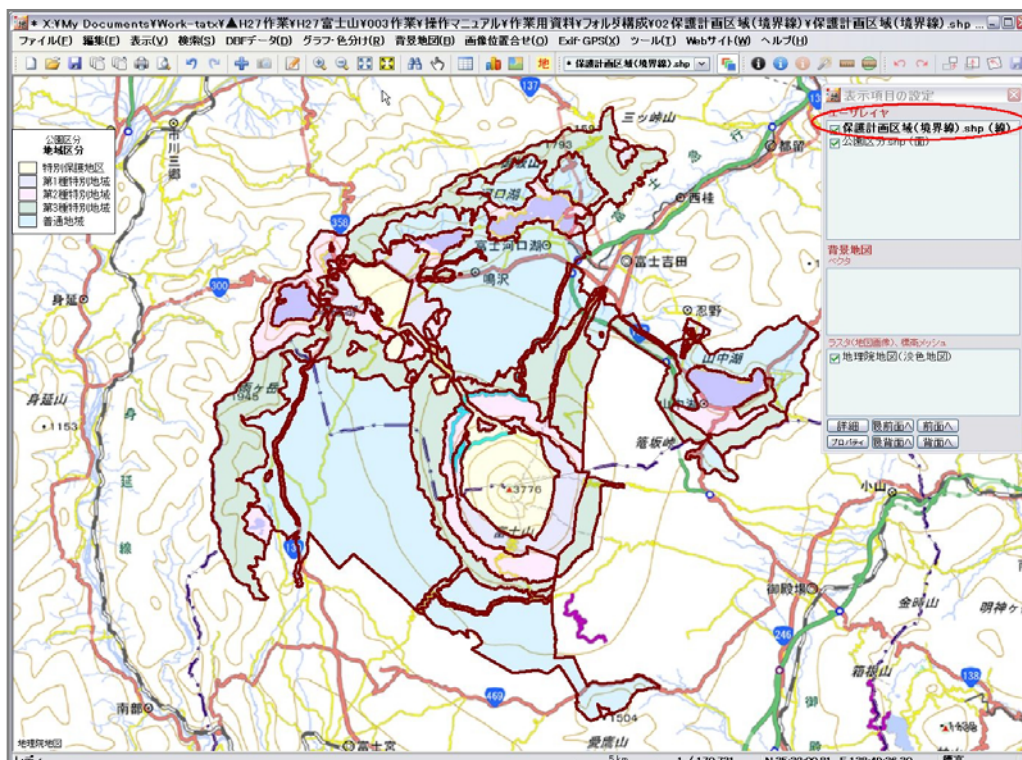
- 計画区域、境界線を表示する

「ファイル」より「ユーザレイヤを開く」を選択

続いて「02 保護計画区域(境界線)」フォルダよりファイルを選択



公園計画図の区域の境界線が表示される





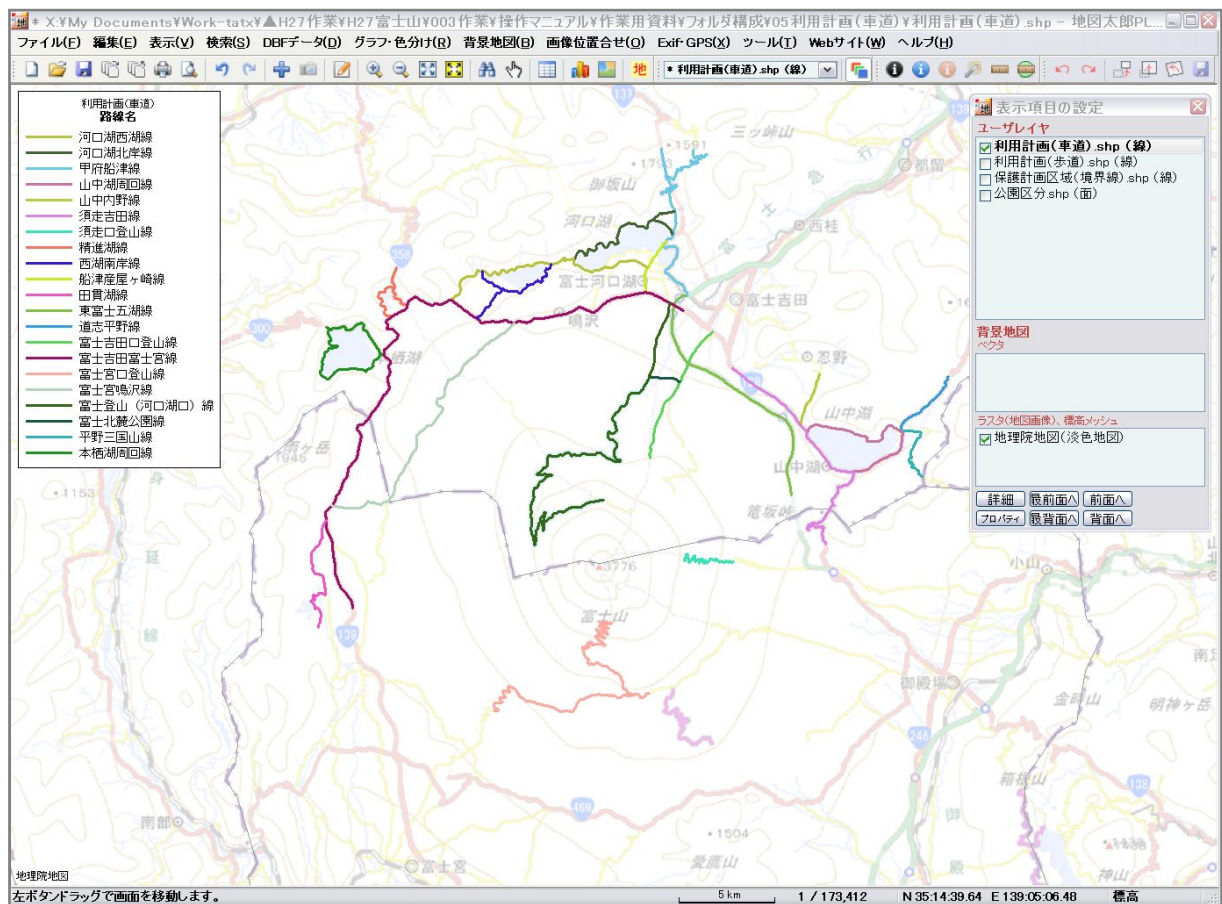
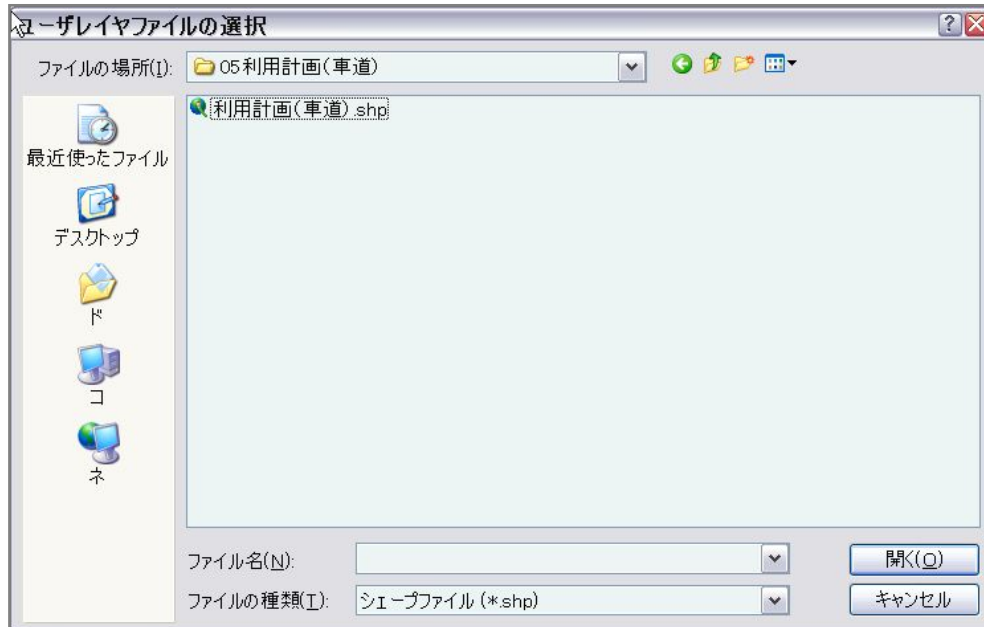
※参照 その他の地図の読み込みと表示例

- 車道

「ファイル」より「ユーザレイヤを開く」を選択

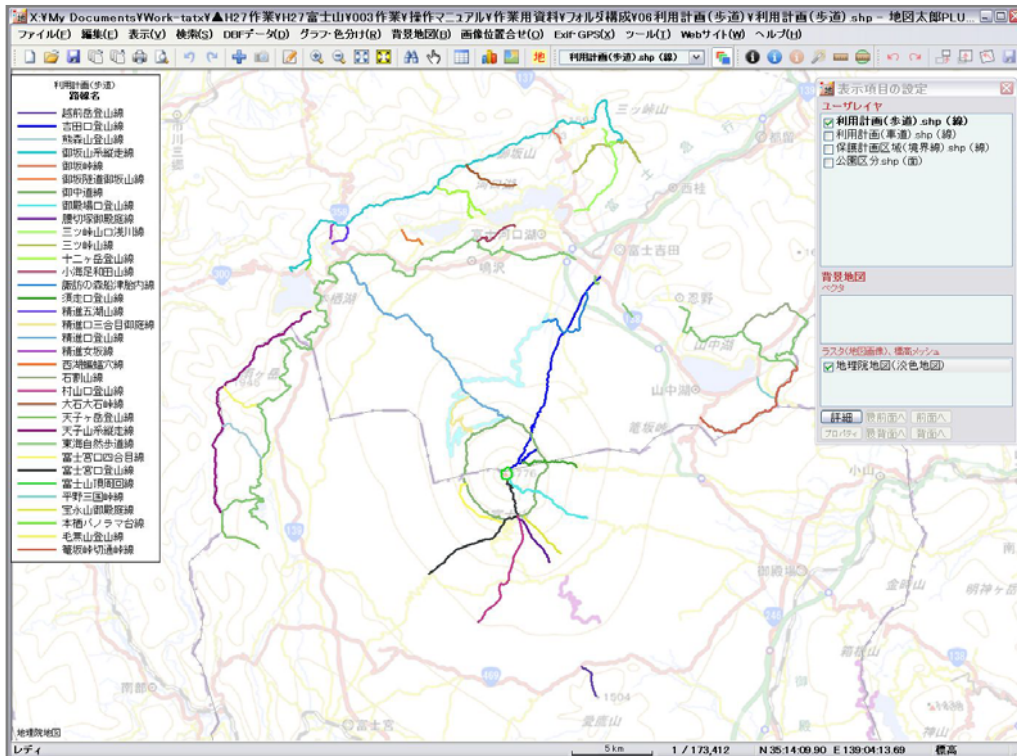
続いて「05 利用計画(車道)」フォルダよりファイルを選択

公園計画図の「車道」位置が表示される



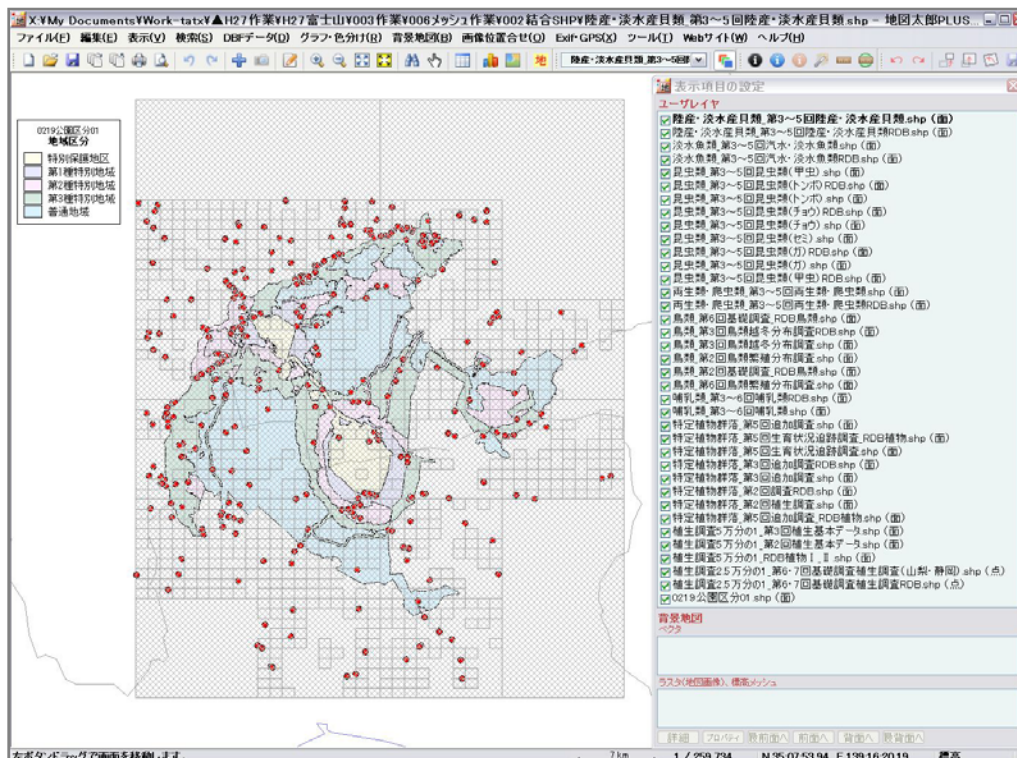
- 歩道

同様に「06 利用計画(歩道)」フォルダよりファイルを選択し、公園計画図の「歩道」位置が表示される



- 貴重種情報

同様に「08 生物多様性情報」フォルダの「01 生物多様性センターからの貴重種情報」よりファイルを選択。生物多様性センターより貸与された貴重種情報(メッシュポリゴン・ポイント)が表示される

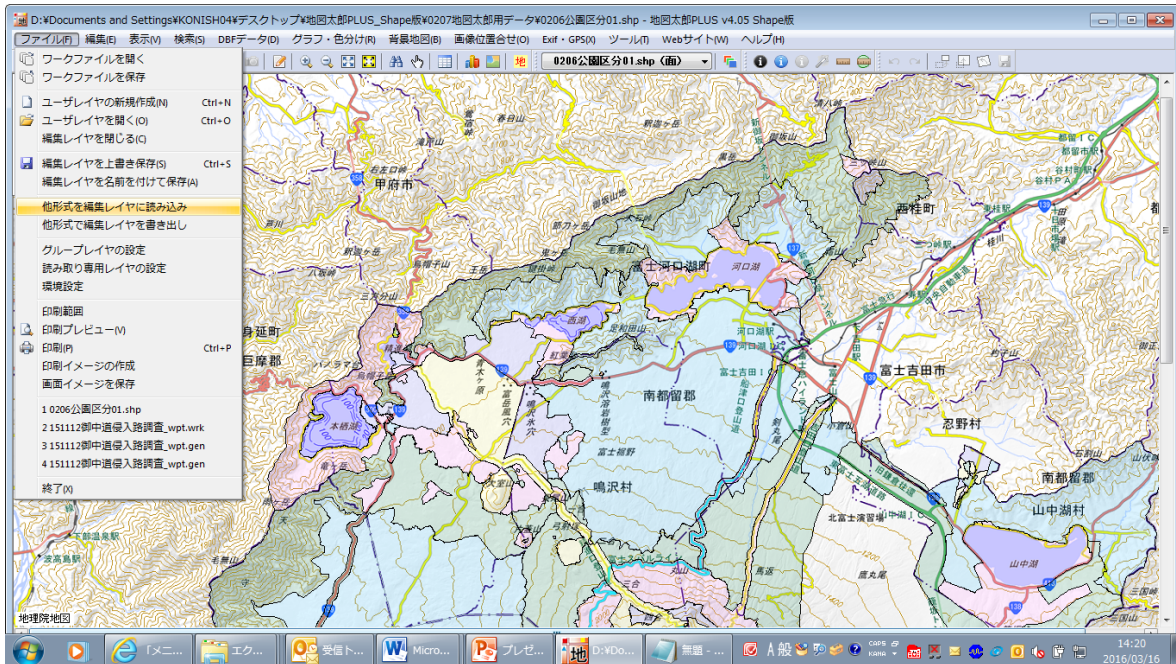




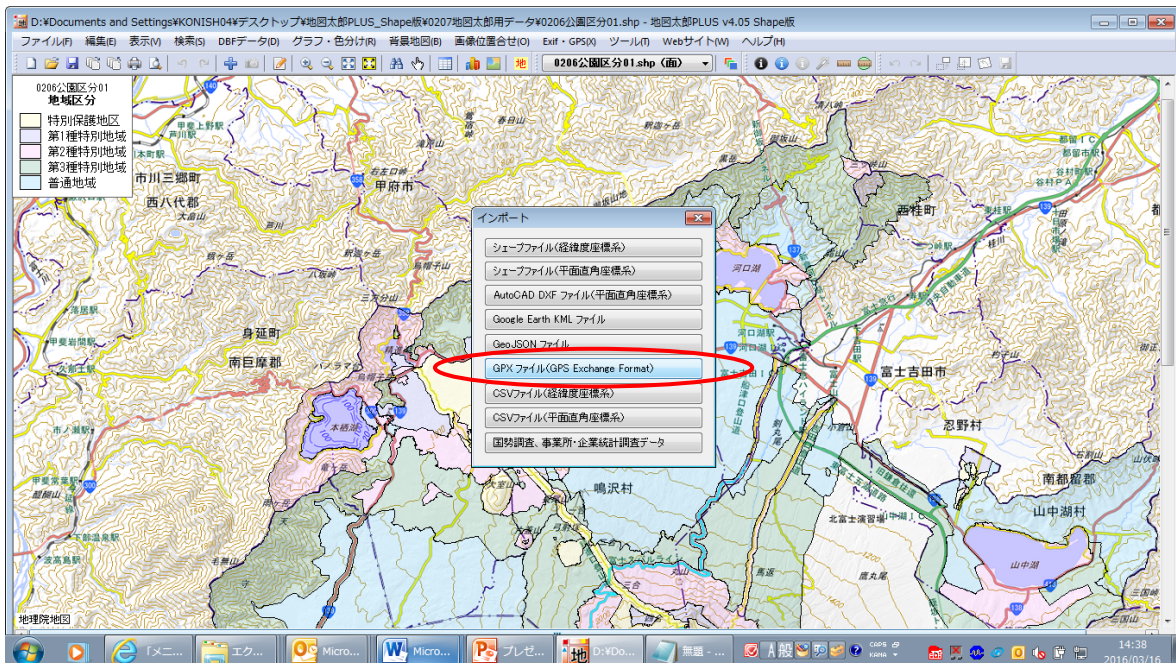
## ⑥ 公園計画図に正確な位置を落とす

- gpx データを読み込む

「ファイル」より「他形式を編集レイヤに読み込み」を選択



「GPX ファイル(GPS Exchange Format)」を選択

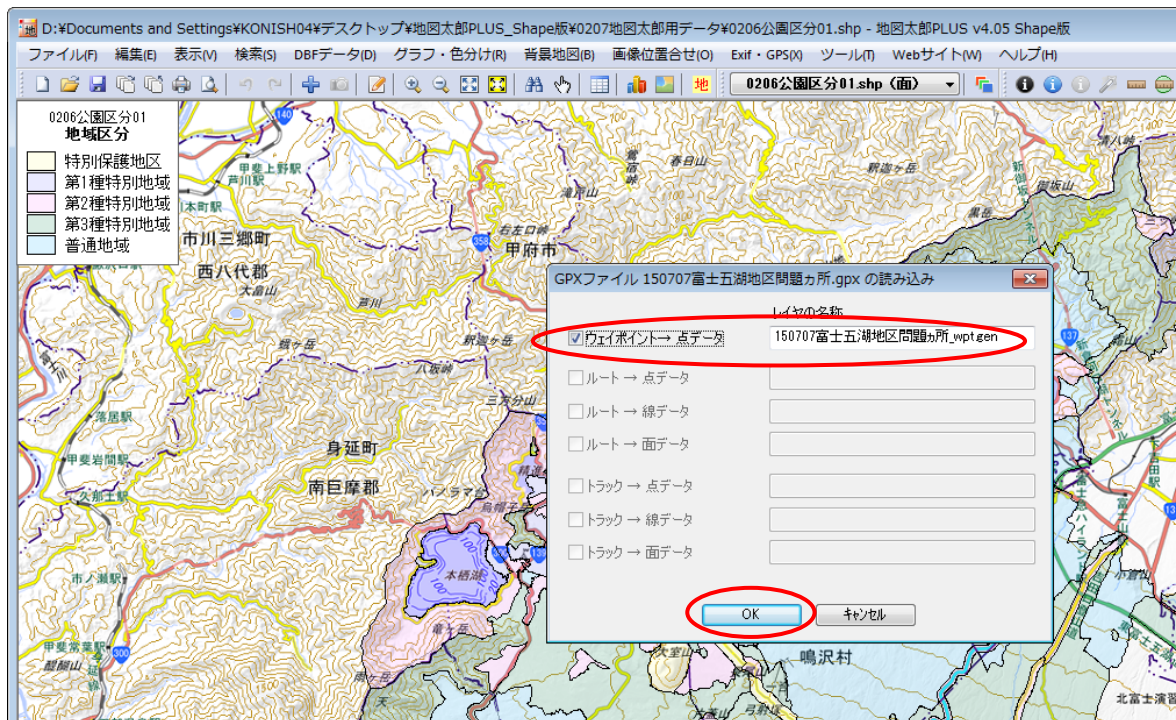


③で保存した gpx ファイルを開く

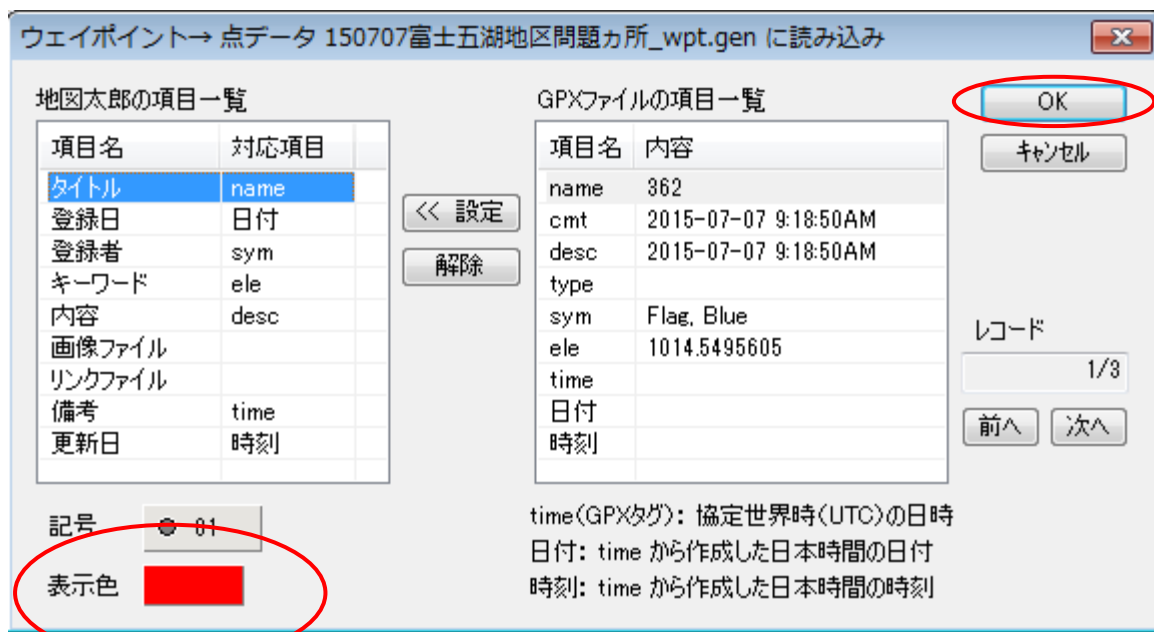




「ウェイポイント→点データ」にチェックをいれ「OK」を押す



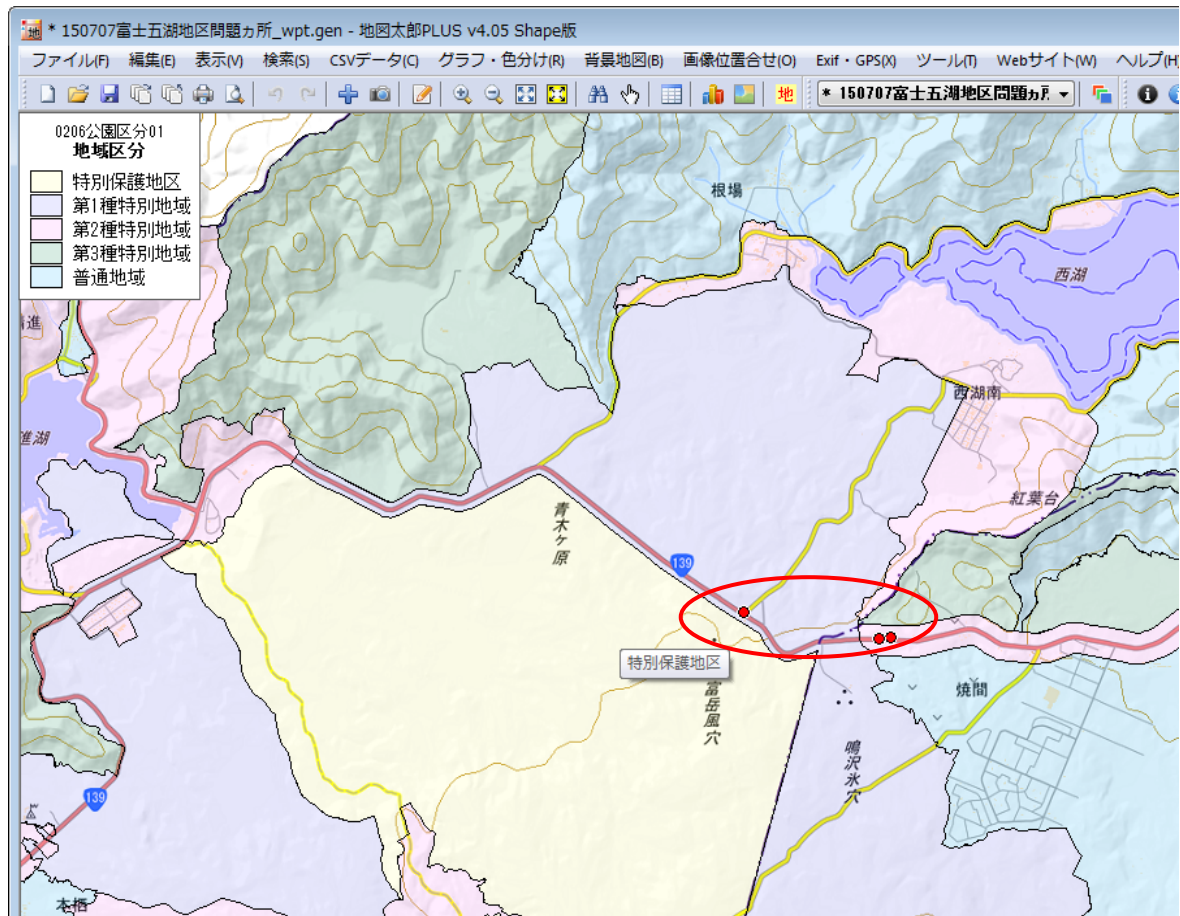
OK を押す



ウェイポイントの表示や色を変更したい場合、ここから変更可能

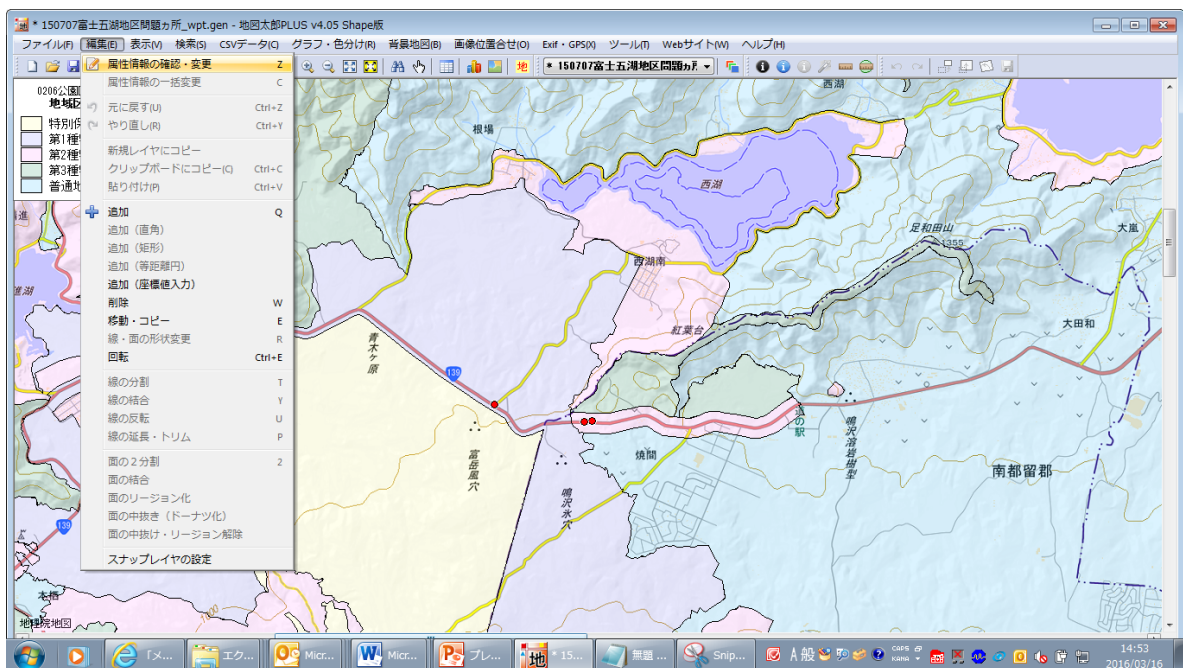


GPS で登録したポイントが表示される

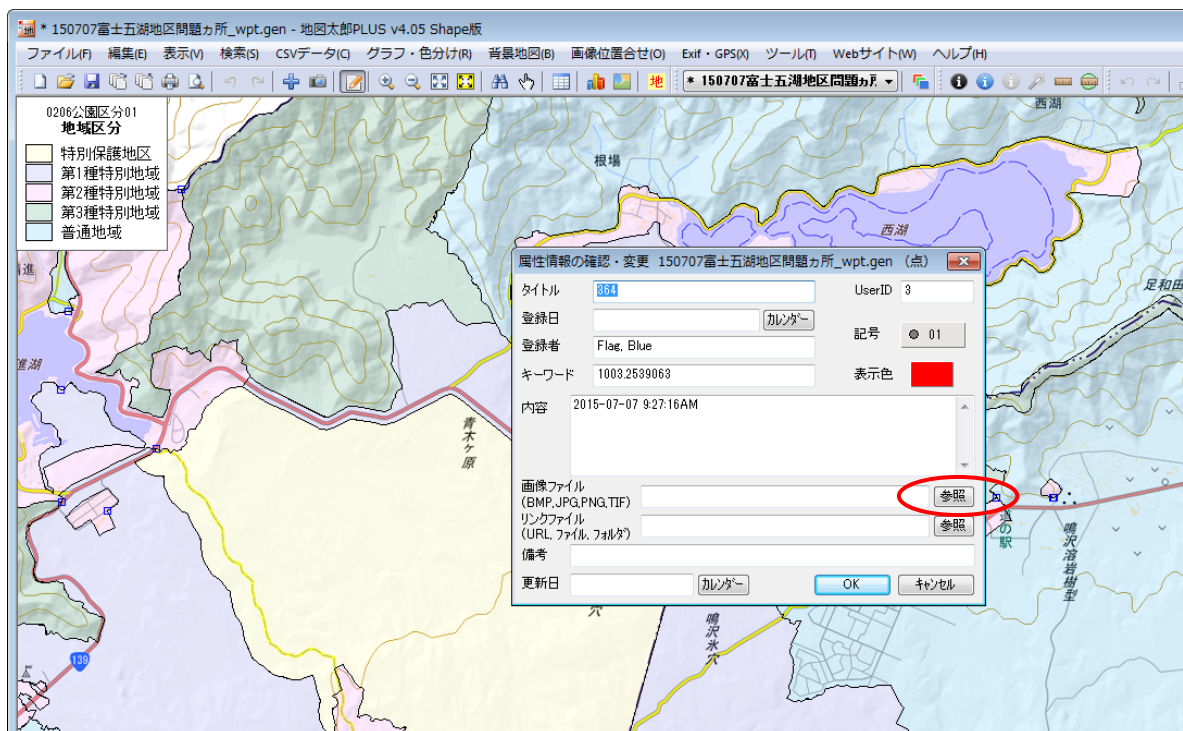


⑦ デジタルカメラで撮影した状況写真を地図上に表示する

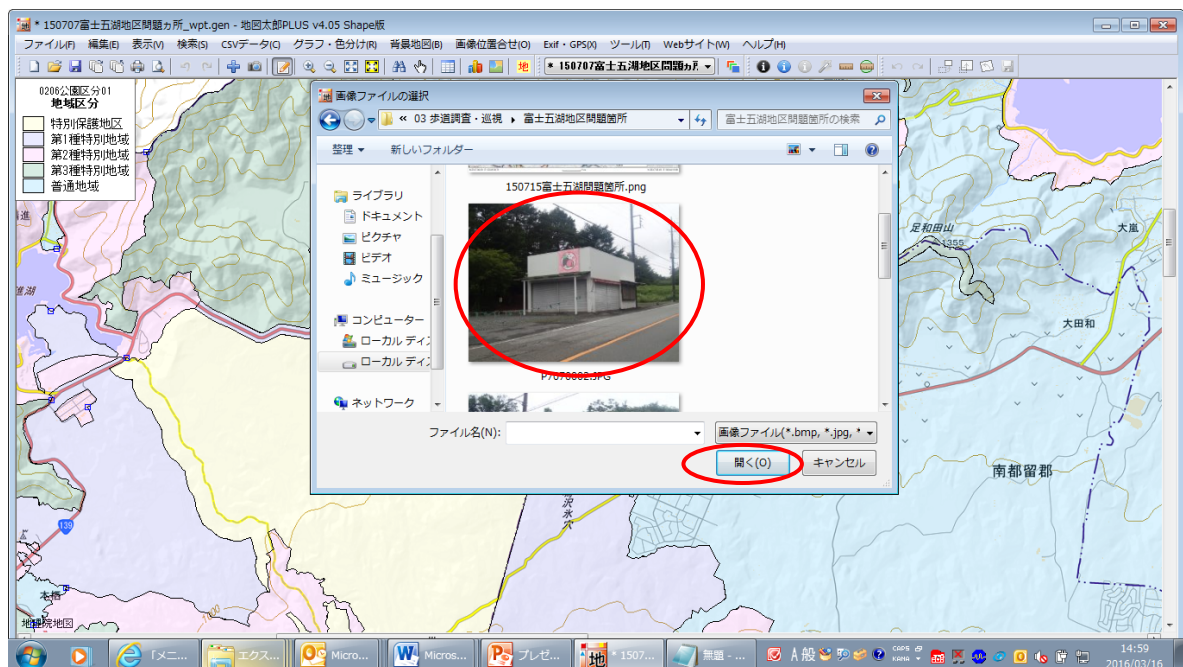
- ウェイポイントに画像を登録  
「編集」より「属性情報の確認・変更」を選択



属性を表示させたいウェイポイントをクリックする  
※この際、マウスポイントは「+属性」となっている  
画像ファイル「参照」をクリック



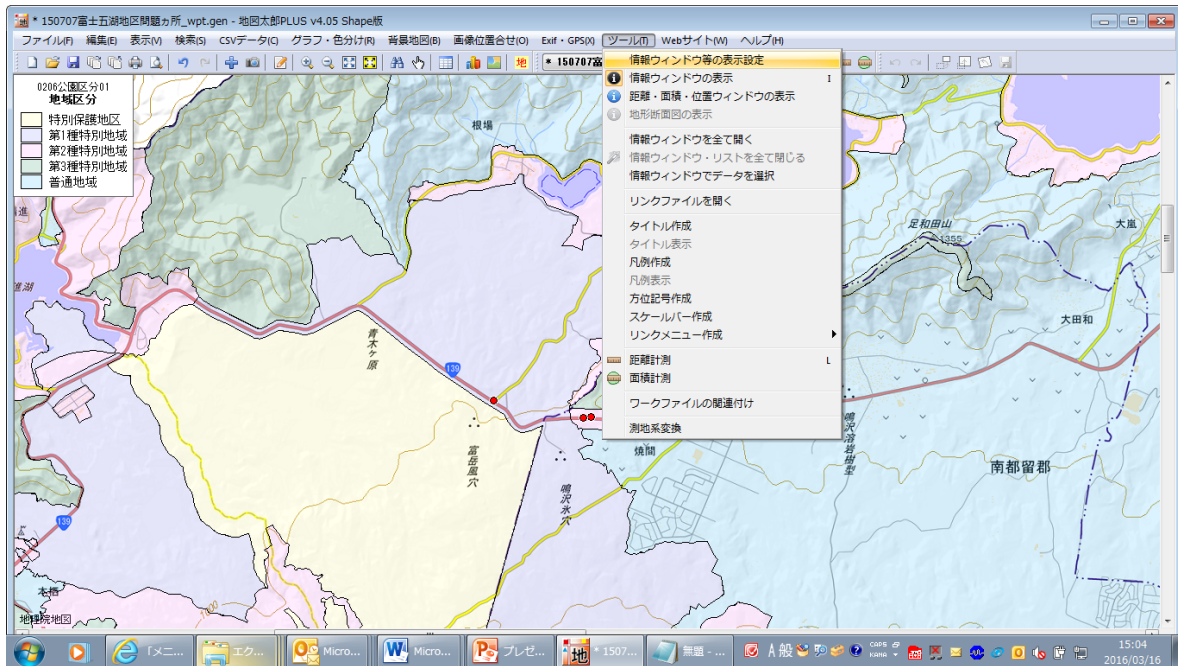
②で撮影した画像を選択



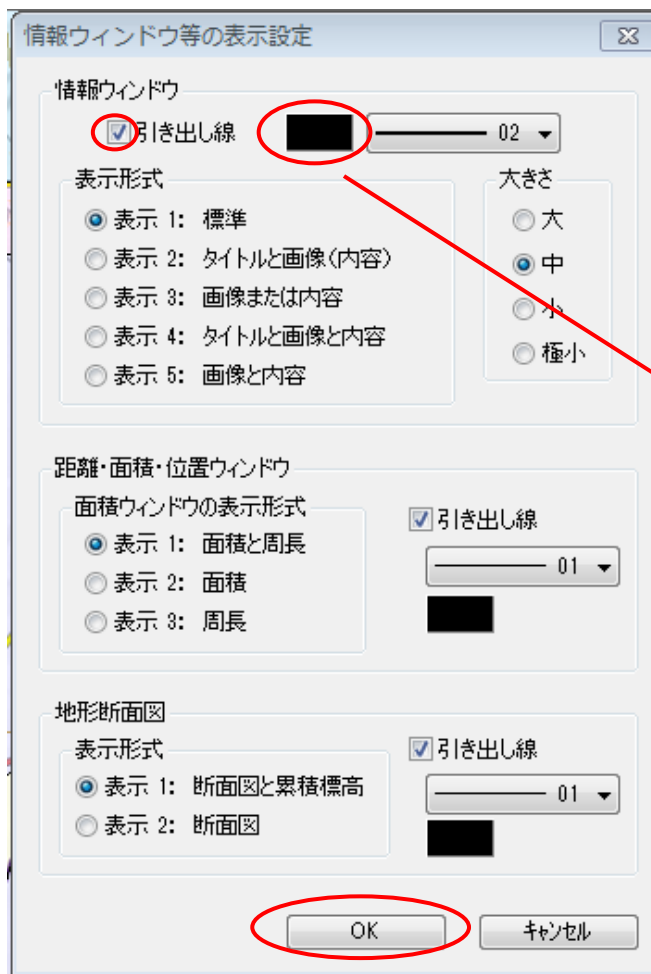
「属性情報の確認・変更」の「OK」を押す



- 登録した画像を表示  
「ツール」より「情報ウィンドウ等の表示設定」を選択



「引き出し線」にチェックを入れる

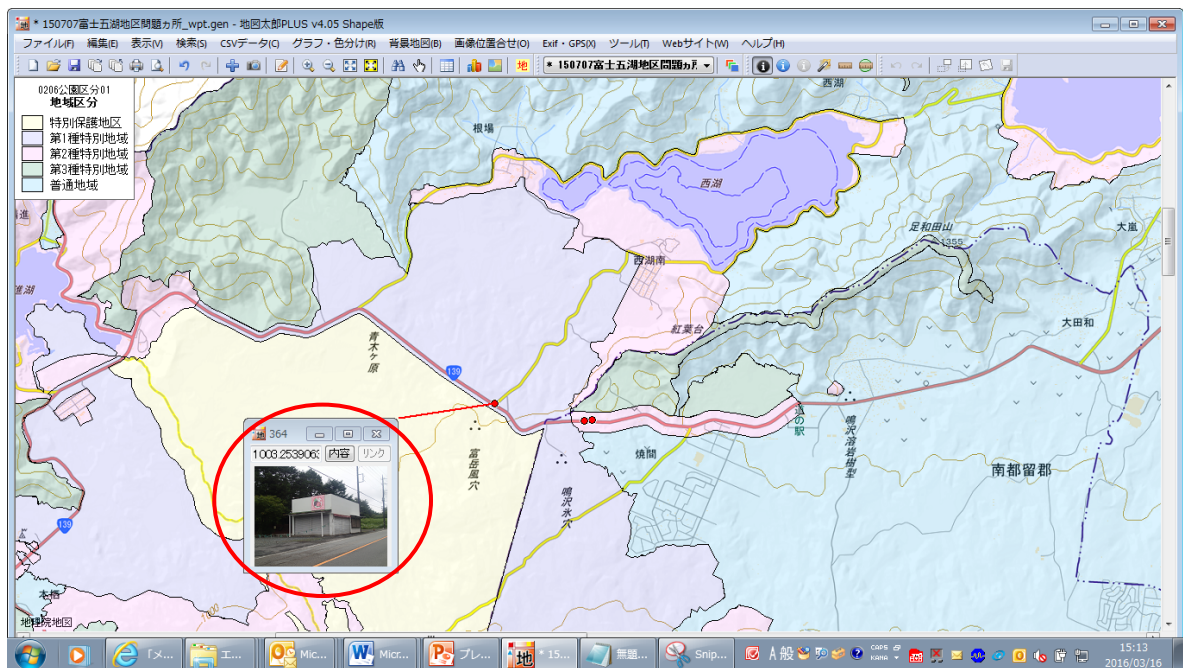


引き出し線の色を変更したい場合は  
クリックし色を選択。OKを押す





画像を表示させたいウェイポイントをクリック。画像が表示される。適当な位置に移動  
※この時、マウスポインタは「+i」になっている  
情報ウィンドウを右クリックすると表示形式を変更可能

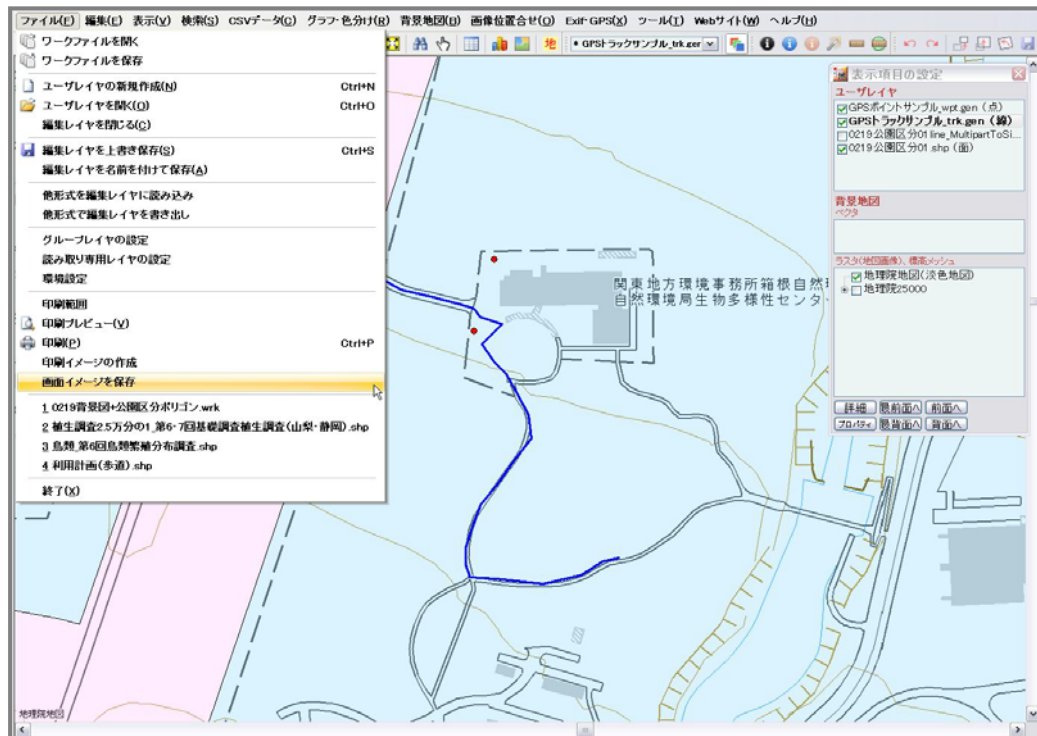


⑧ 作成したデータを印刷

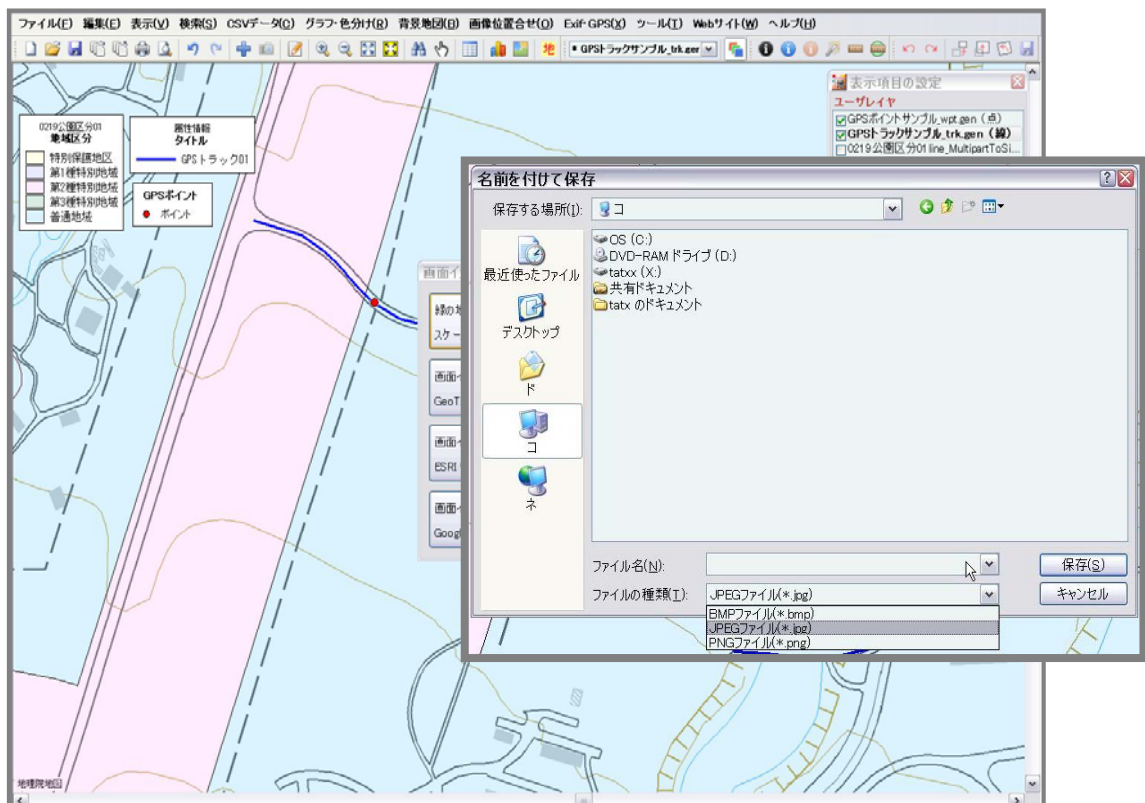
ユーザーズガイド(2015.10.22 版) 45～46 ページ参照(別添参照)

⑨ 作成したデータを画像として出力

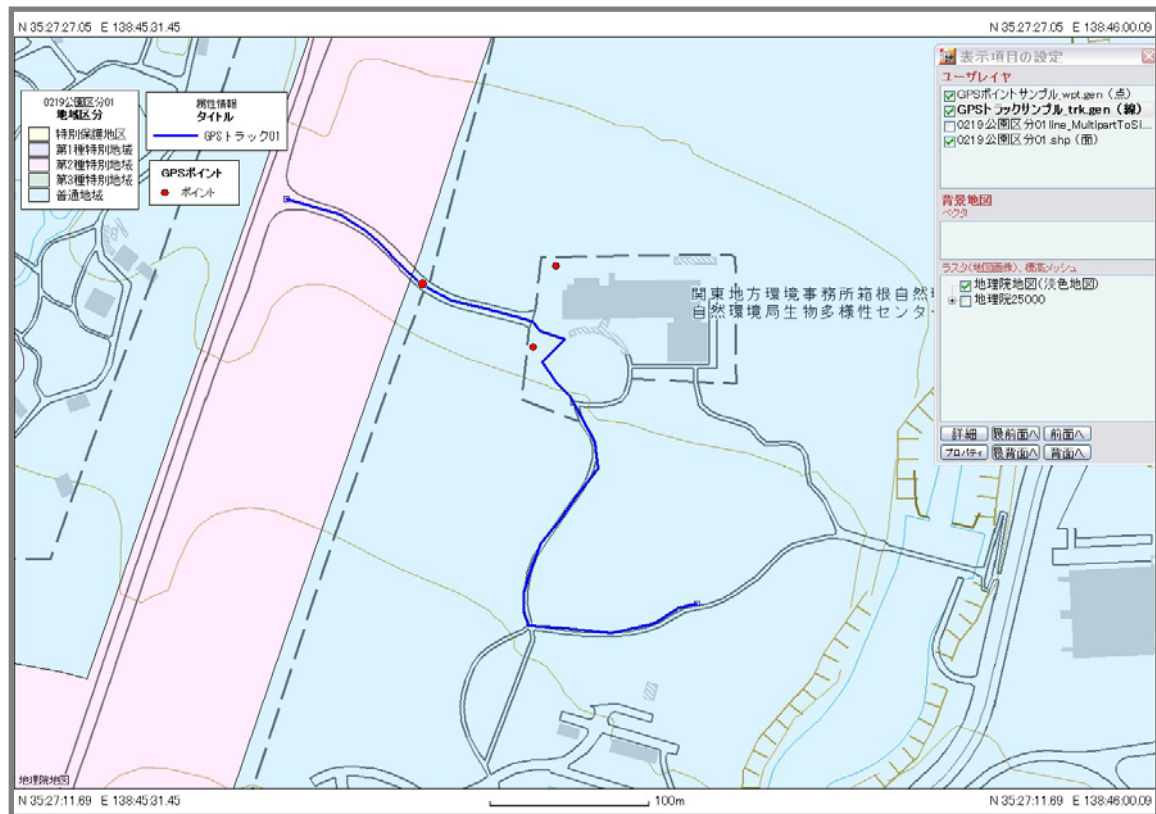
「ファイル」から「画面イメージを保存」を選択



「緑の地図太郎の印刷と同じイメージ」を選択し、画像ファイルの形式を「BMP」「JPEG」「PNG」から選択し、所定の場所に名前をつけて保存



出力した画像ファイル。報告書で不要な要素(サブウィンドウ等)はあらかじめ消しておくで見やすくなる



⑩ 報告書の添付資料として、上部機関に報告する



## (2)：巡視～報告書作成までの一連の流れ

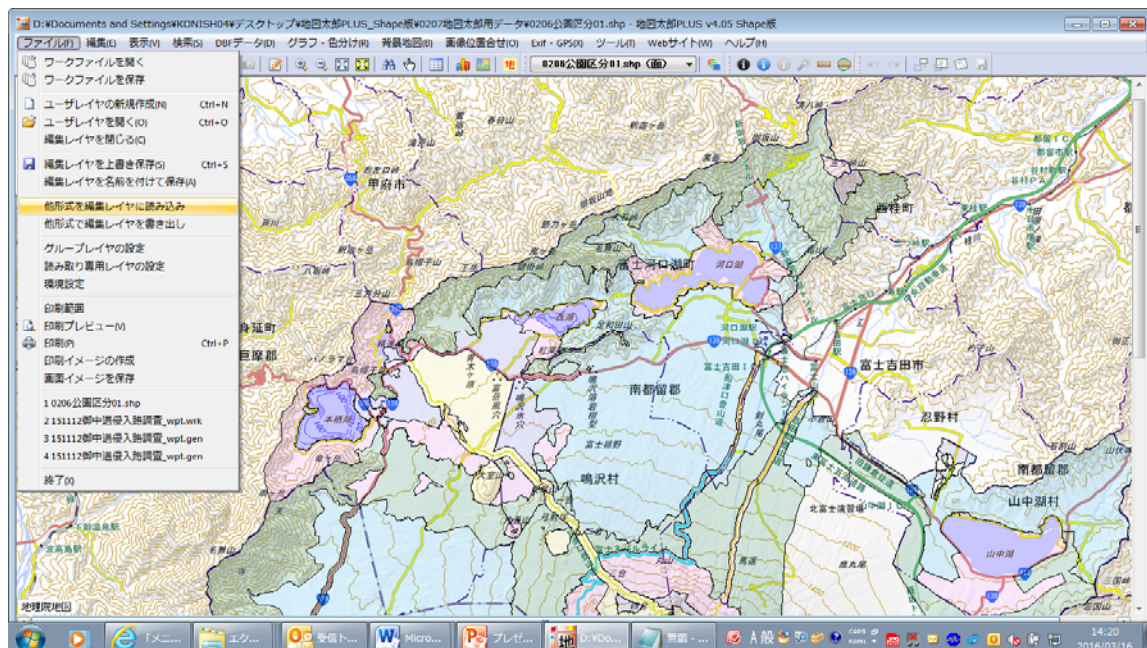
### <流れ>

- ① GPS 機器を使い、ルート情報を記録する
- ② (省略)デジタルカメラで状況写真を撮影する
- ③ (省略)PC にデータ (GPX データ、JPEG) を落とす
- ④ (省略)地図太郎を起動
- ⑤ (省略)背景地図・公園計画図を開く
- ⑥ 公園計画図に正確な位置を落とす
- ⑦ (省略)デジタルカメラで撮影した状況写真を地図上に表示する
- ⑧ (省略)作成したデータを印刷する
- ⑨ (省略)作成したデータを画像として出力
- ⑩ (省略)報告書の添付資料として、上部機関に報告する
- ⑪ (番外編)不要なルートを消す

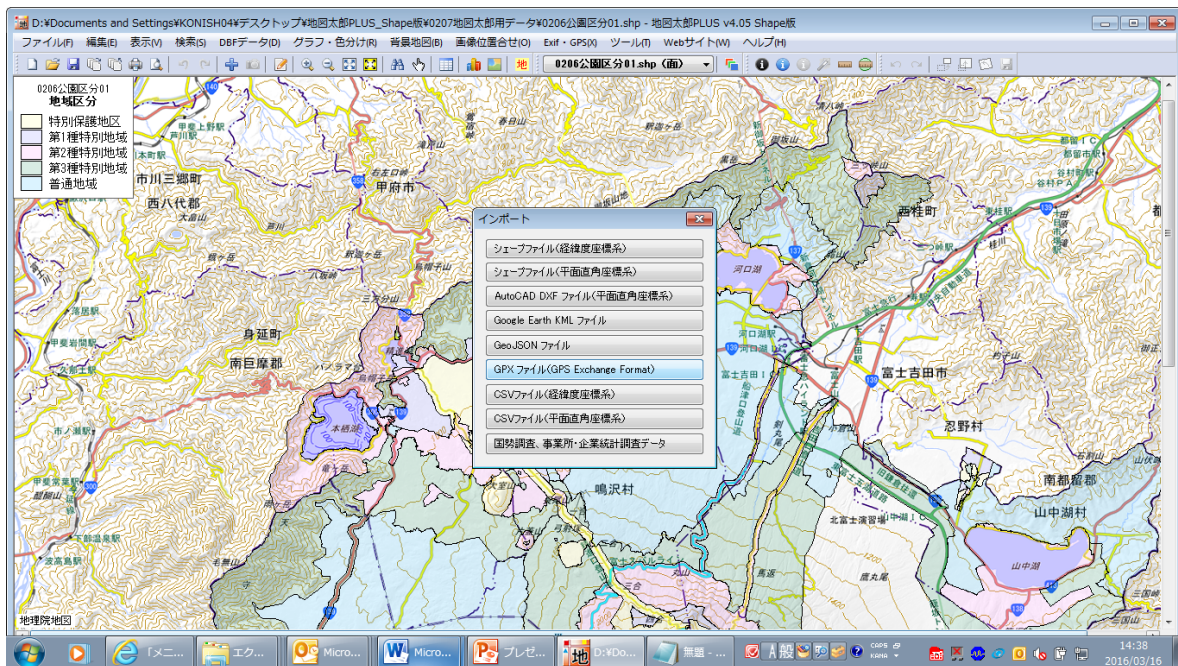
(例)GPS 機器を消し忘れ、車での移動経路(余分なルート)も記録されてしまった場合の削除方法

### <操作手順詳細>

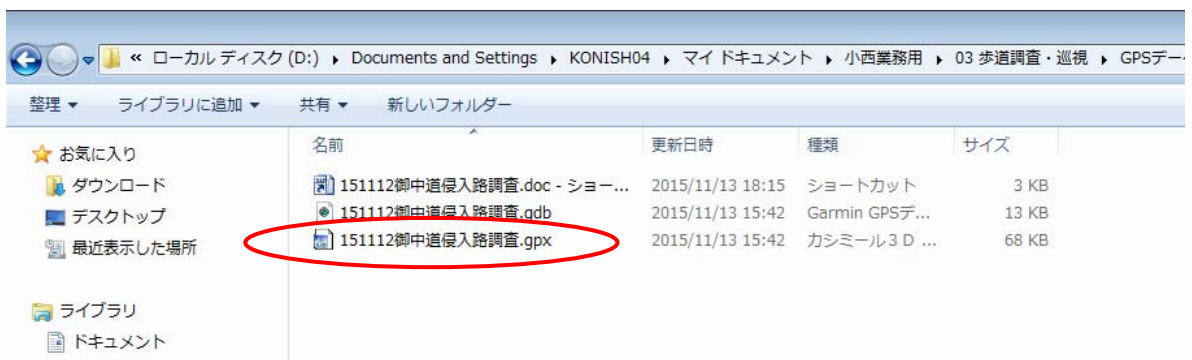
- ① GPS の電源を ON にすれば自動でログが記録される
- ② デジタルカメラで状況写真を撮影する
- ③ PC にデータ (GPX データ、JPEG) を落とす  
7～9 ページを参照
- ④ 地図太郎を起動  
9 ページを参照
- ⑤ 背景地図・公園計画図を開く  
10～20 ページを参照
- ⑥ 公園計画図に正確な位置を落とす
  - gpx データを読み込む  
「ファイル」より「他形式を編集レイヤに読み込み」を選択



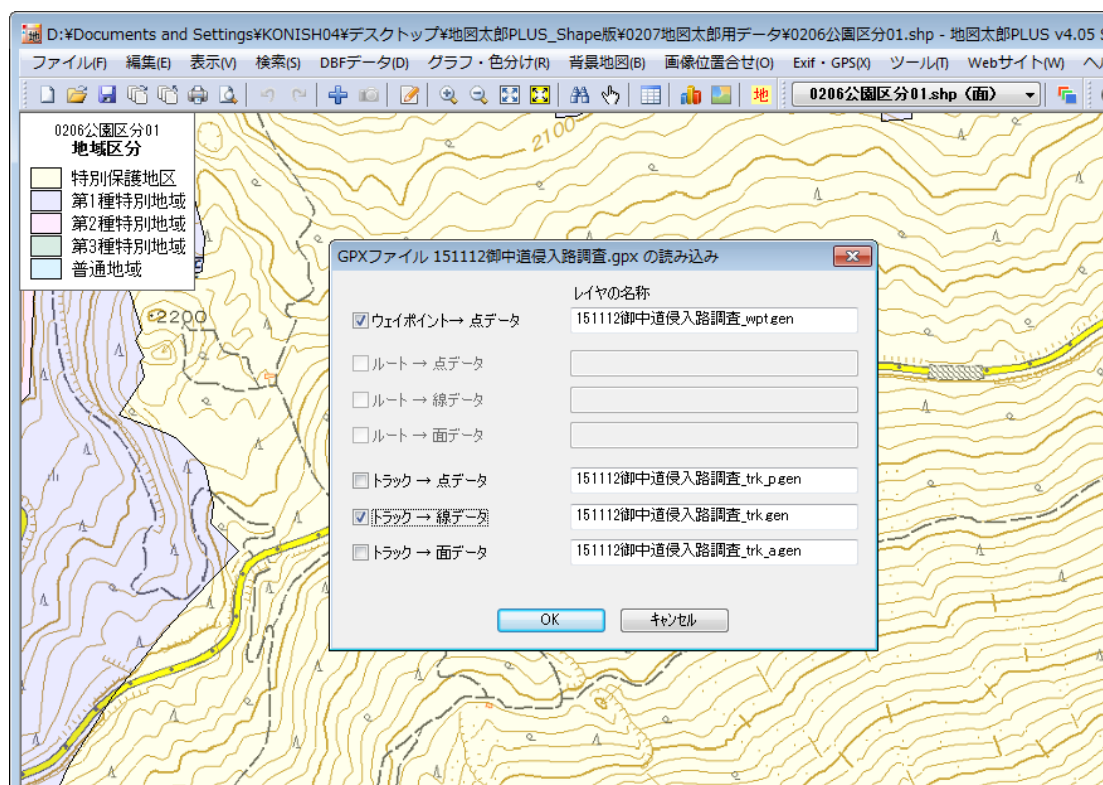
「GPX ファイル(GPS Exchange Format)」を選択



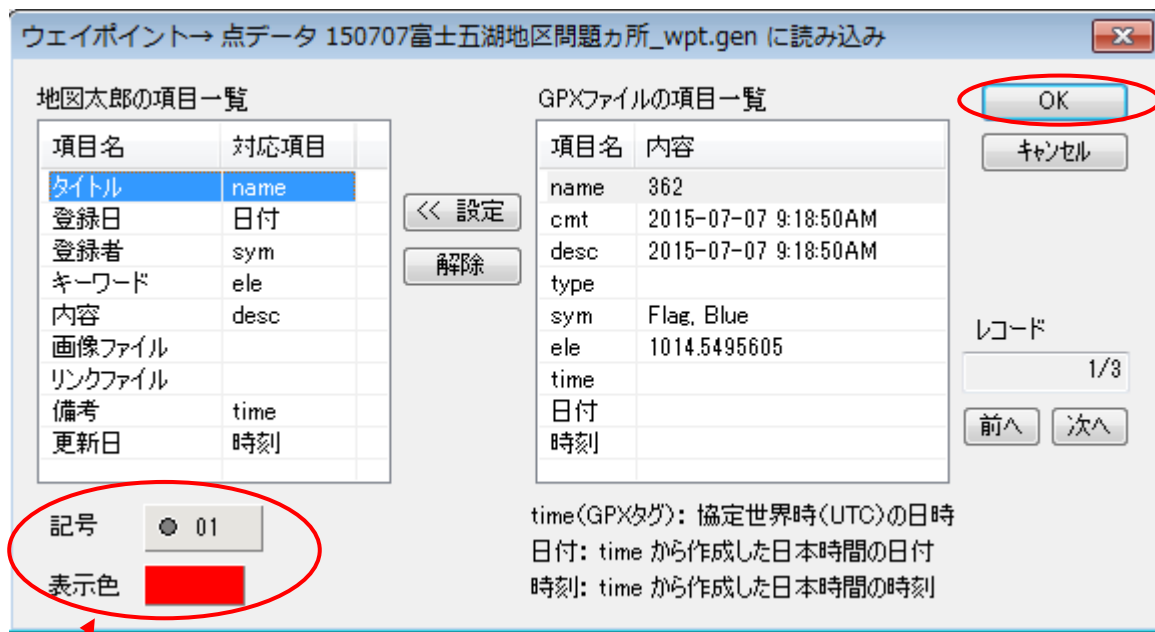
③で保存した gpx ファイルを開く



「ウェイポイント→点データ」・「トラック→線データ」にチェックをいれ「OK」を押す



OK を押す

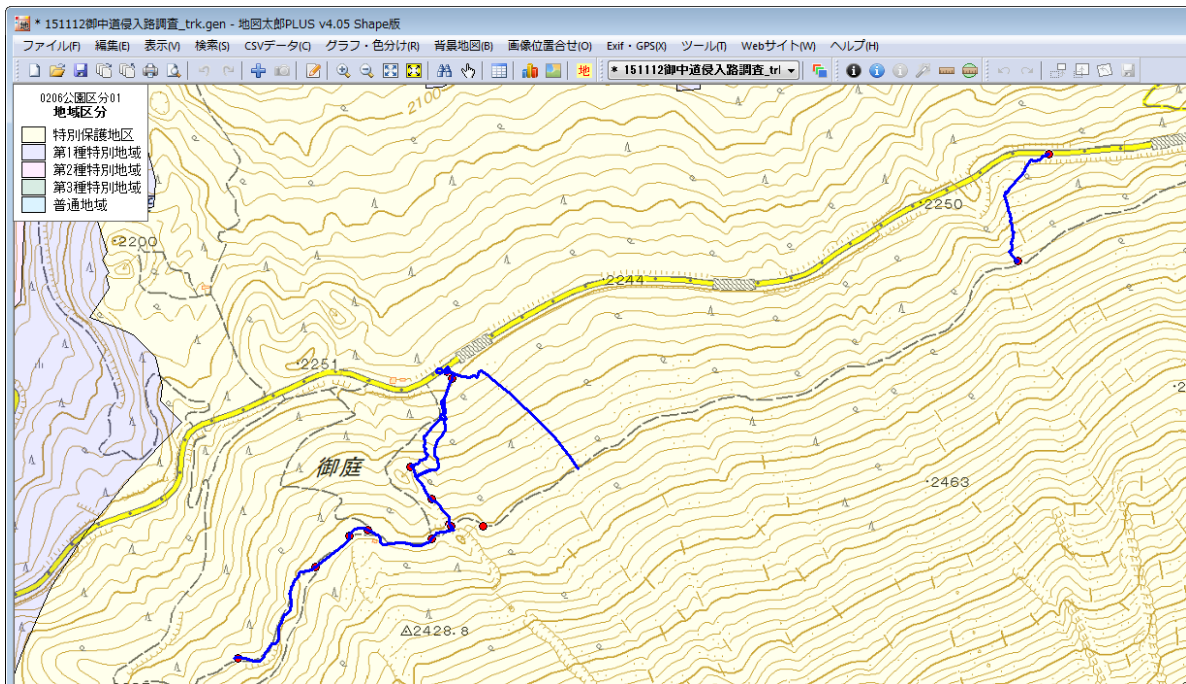


ウェイポイントの表示や色を変更したい場合、ここから変更可能

※トラック→線データも同様に変更可能



GPS で記録したトラックデータ、ウェイポイントが表示される



- ⑦ デジタルカメラで撮影した状況写真を地図上に表示する  
23～26 ページを参照

- ⑧ 作成したデータを印刷する  
ユーザーズガイド(2015. 10. 22 版) 45～46 ページ参照(別添参照)

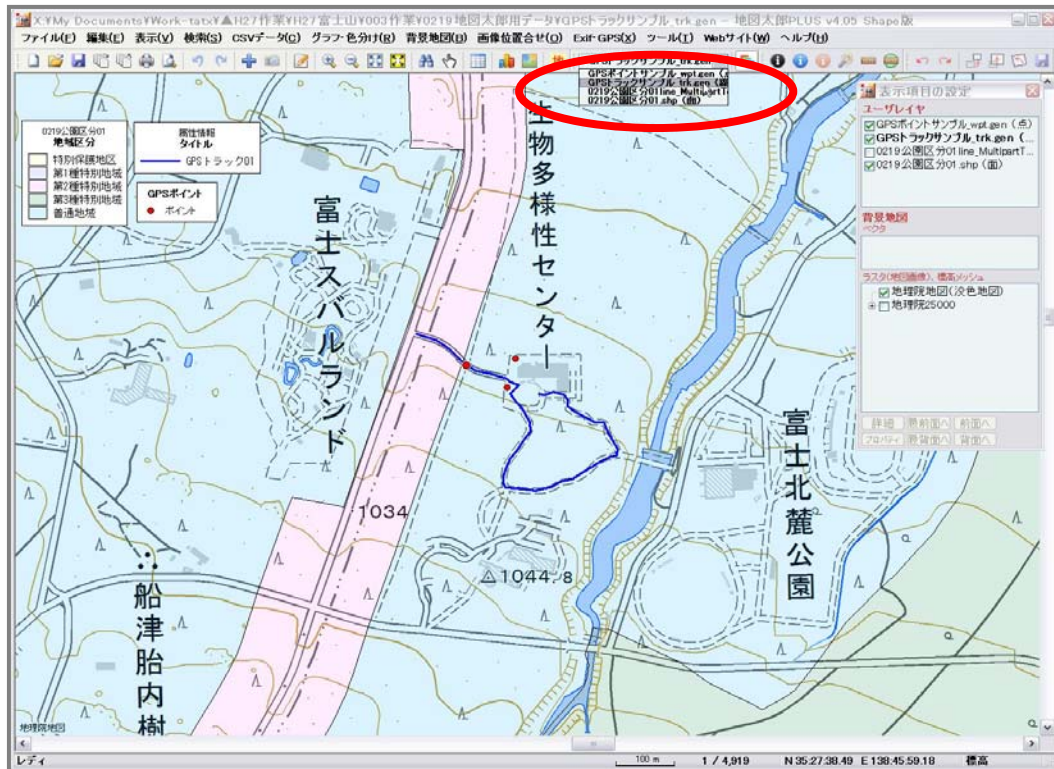
- ⑨ 作成したデータを画像として出力  
27～28 ページを参照

- ⑩ 報告書の添付資料として、上部機関に報告する

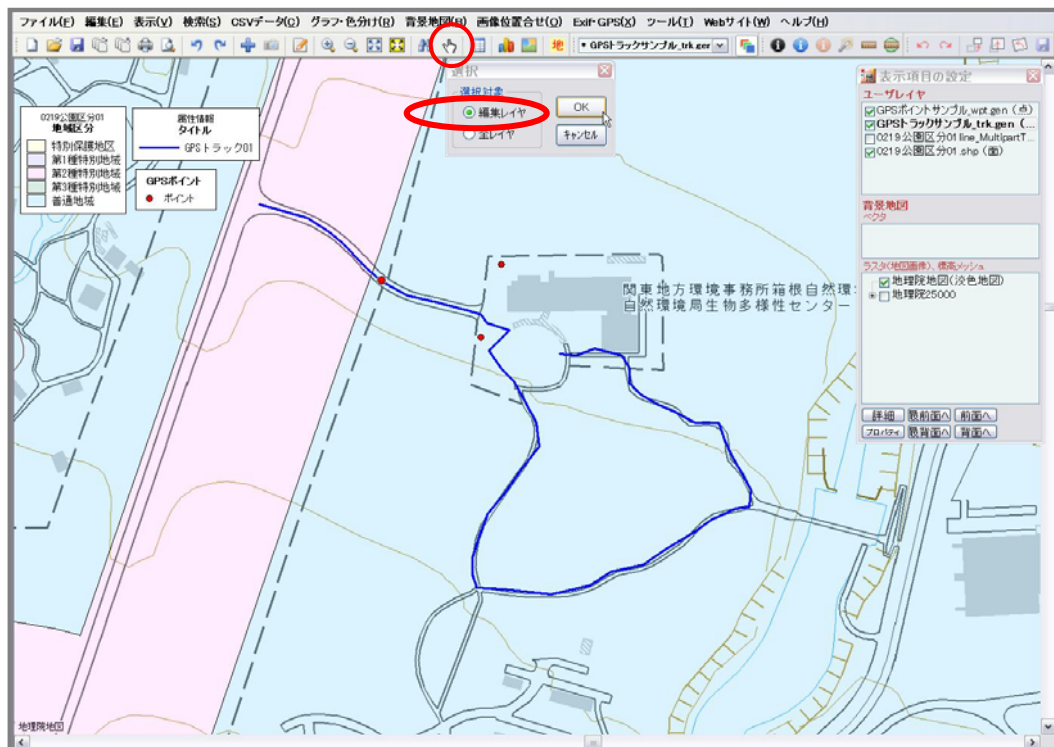
# ⑪ (番外編)不要なルートを消す

対象とするラインデータのファイルを「編集レイヤの選択」から選択

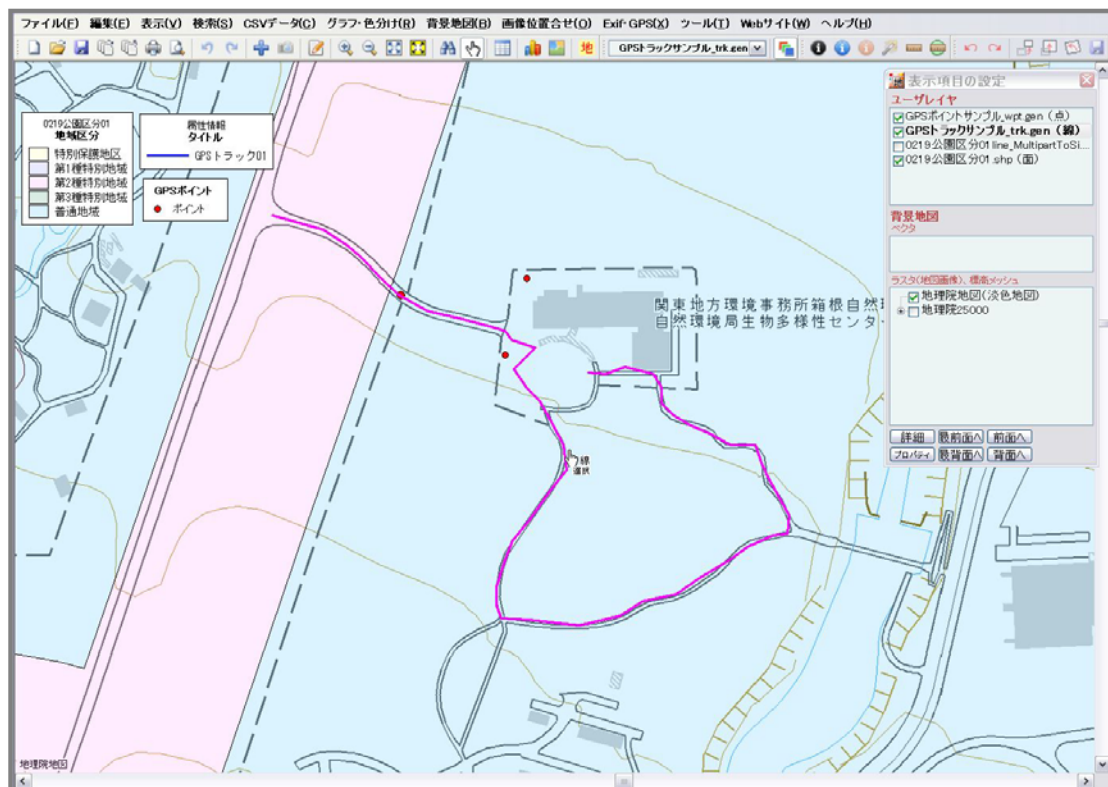
※この事例ではGPSトラックのファイルを指定



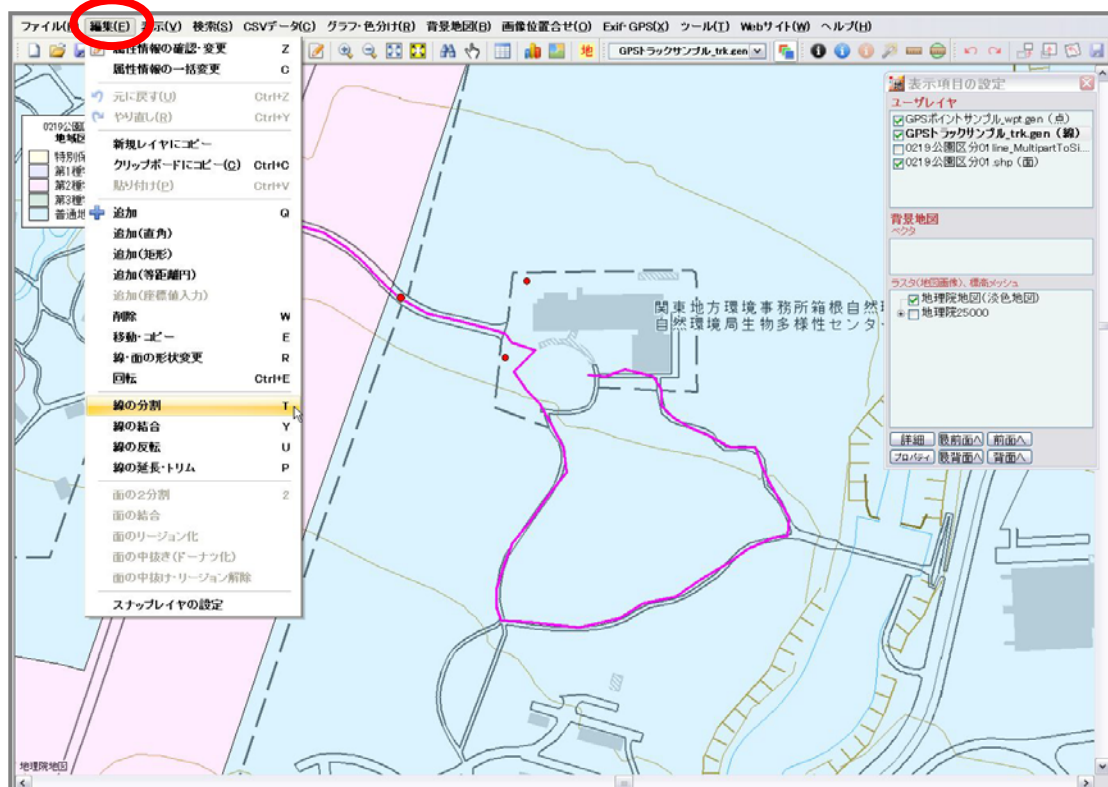
「選択」より「編集レイヤ」を選択



対象の線を選択。選択できると色が変わる

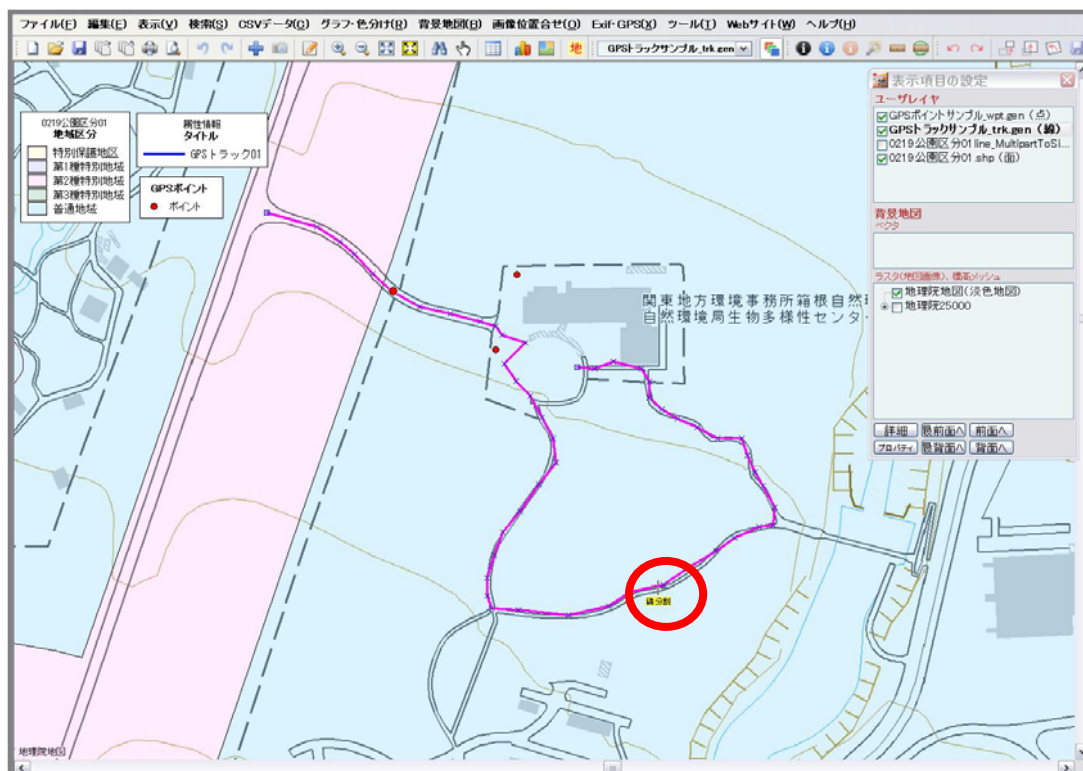


「編集」より「線の分割」を選択

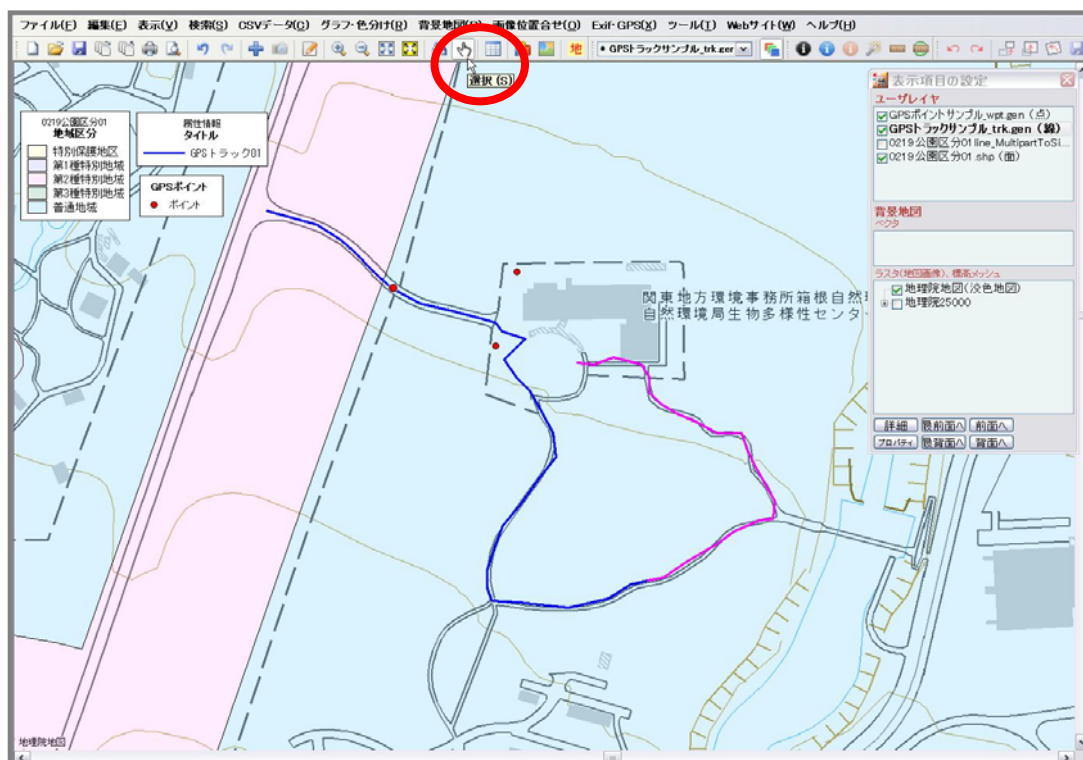




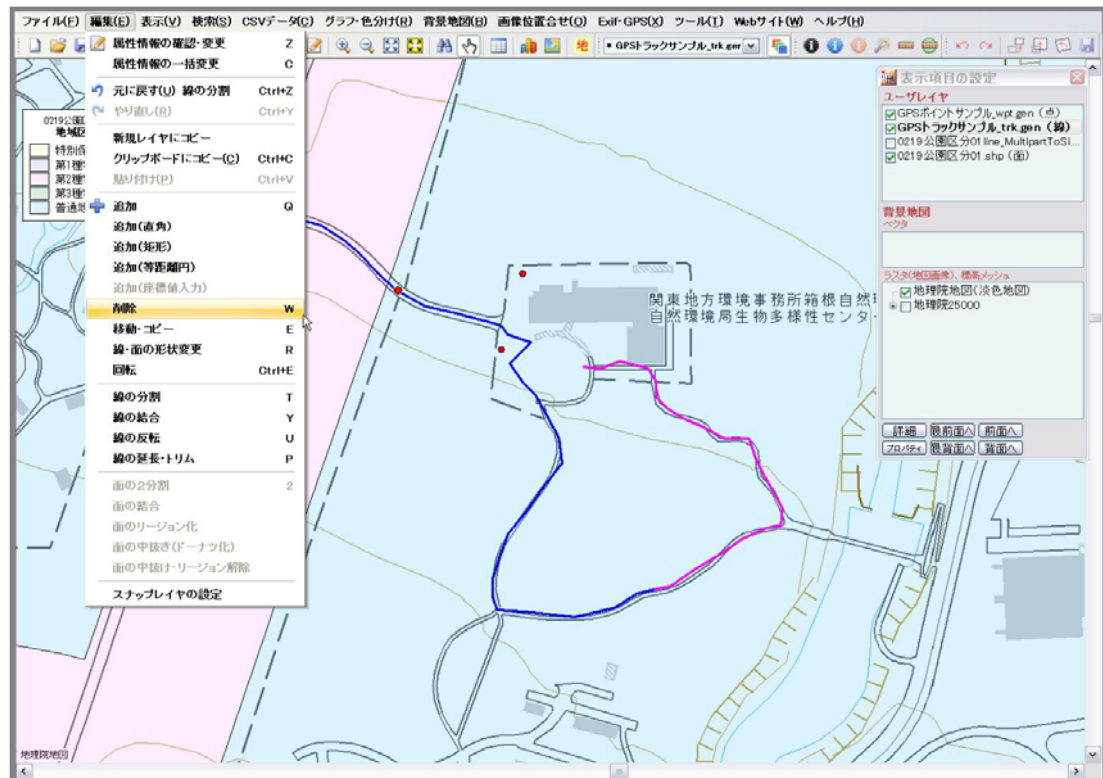
分割したい場所でクリック



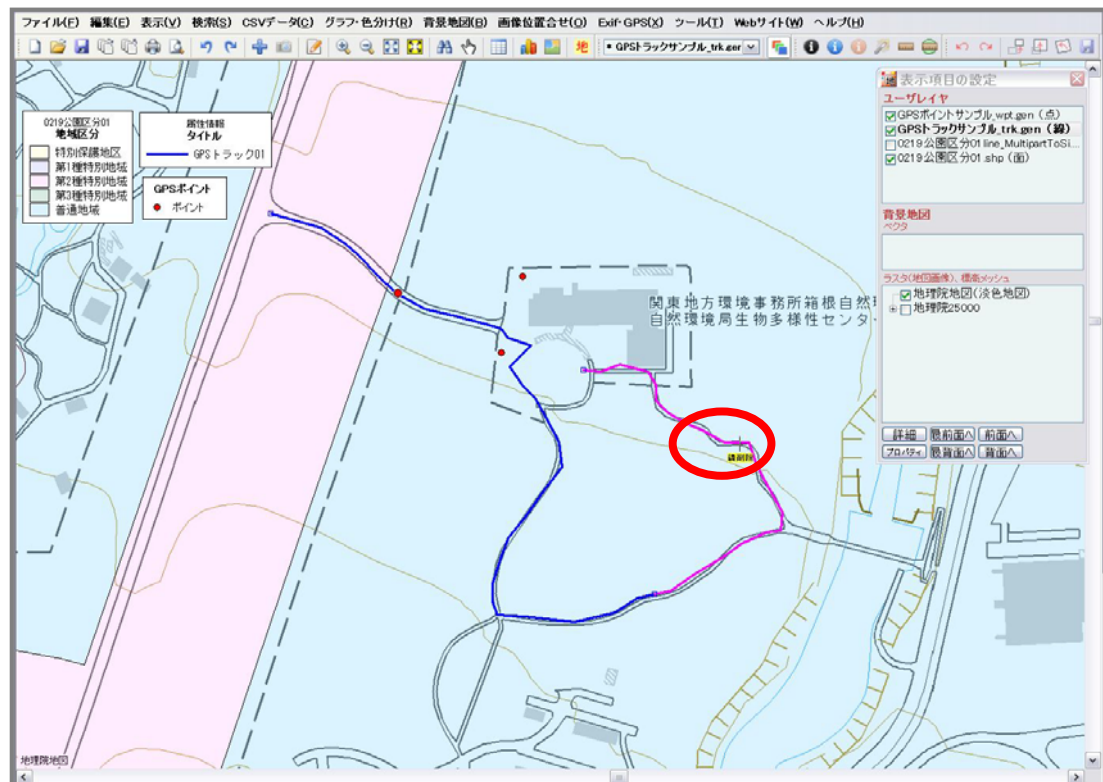
分割後、再度「選択」から不要な線を選択。選択できると色が変わる



「編集」より「削除」を選択

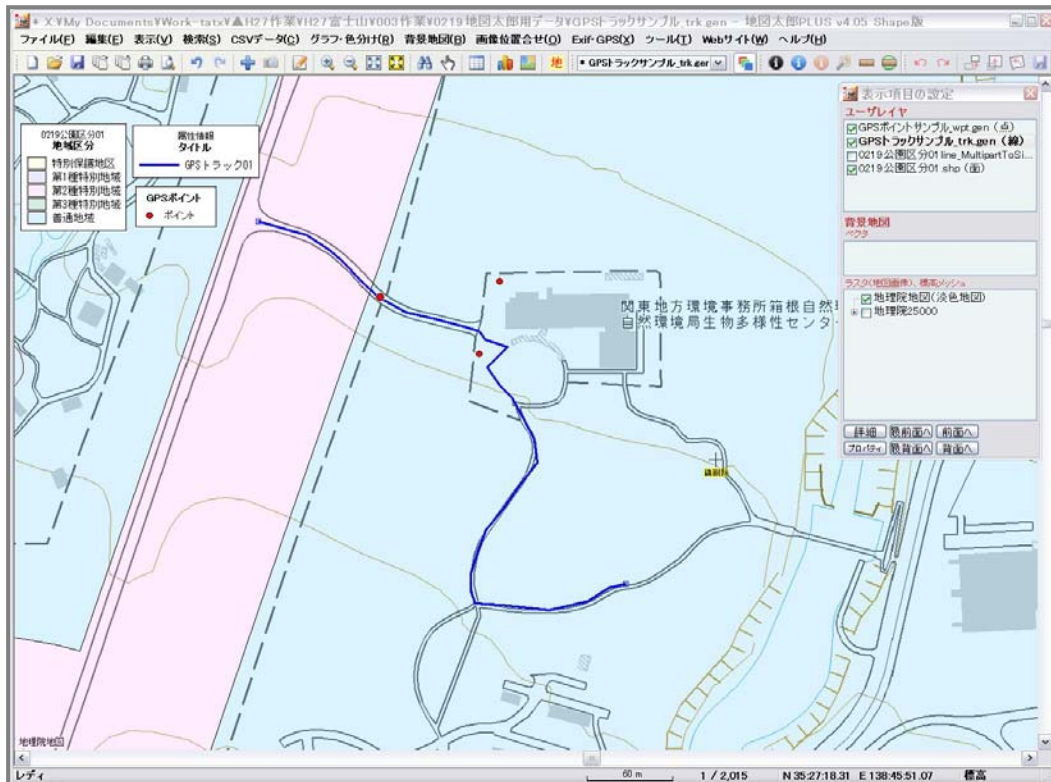


線上でクリック



削除完了

※線全体が不要な場合は、分割せず、線全体を選択して削除も可能

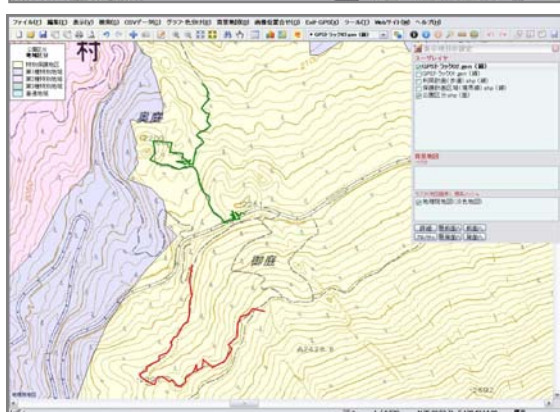
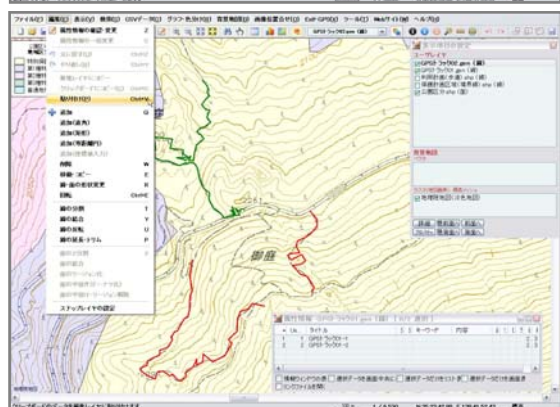
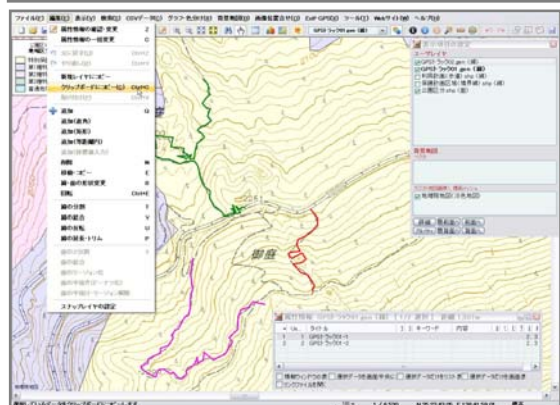
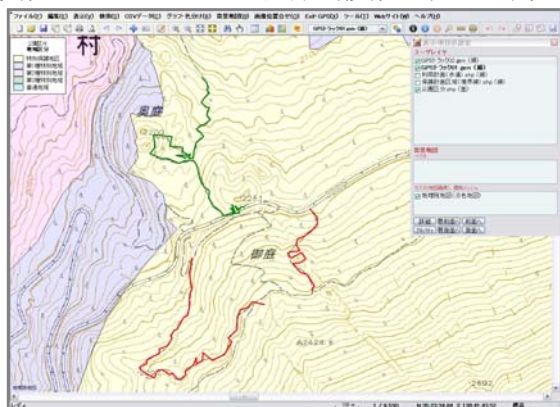




### (3) 巡視ルート統合

◆既存の登山道レイヤーに GPX データで記録したルートデータを統合することを例に手順の説明

#### ①複数の GPX データの統合（複数ファイル間での統合）



地図太郎に複数の GPX ファイルをユーザレイヤに読み込みます。

ここでは、統合元「GPS トラック 01」赤線、統合先「GPS トラック 02」緑線とした読み込んだ例です。

はじめに、統合元の作業からです。

「編集レイヤの選択」で「GPS トラック 01」を選択後、「選択」で統合したい線を選択、選択され色が変わったこと確認後、「編集」から「クリップボードにコピー」を選択します。

次に、統合先の作業です。

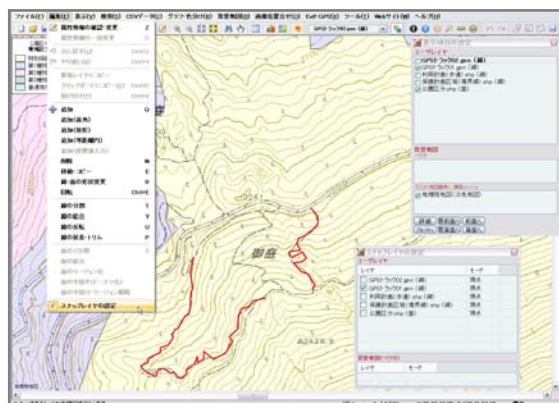
「編集レイヤの選択」で「GPS トラック 02」を選択後、「編集」から「貼り付け」を選択します。

確認です。

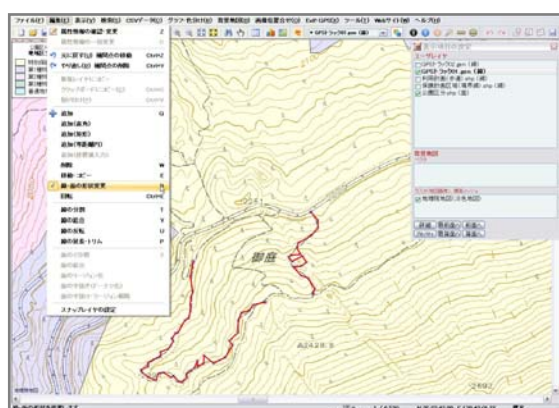
「表示項目の設定」で「GPS トラック 01」を非表示にし、「GPS トラック 02」だけ表示させてみます。はじめの統合元の作業で選択した線が、「GPS トラック 02」ファイル統合されていることが確認できます。

この状態で「ファイル」より「編集レイヤを上書き保存」または「編集レイヤを名前を付けて保存」すれば、統合されたファイルで保存できます。

## ②複数の GPX データの統合（同一ファイル内での統合）



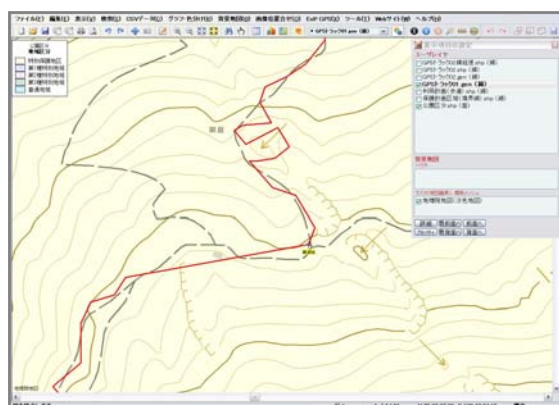
「編集レイヤの選択」で統合したい GPX データの入っている「GPS トラック 01」を選択後、「編集」から「スナップレイヤの指定」を選択し、自ファイルの「頂点」を指定します。



「編集」から「線・面の形状変更」を選択します。



マウスで線の端点を選択後、そのまま統合したい線の端点に移動させます。スナップレイヤの指定済みなので、相手端点上で「snap」の表示を確認し、位置を決定します。この状態では、外見上は 1 本線ですが、データは 2 本分のままです。



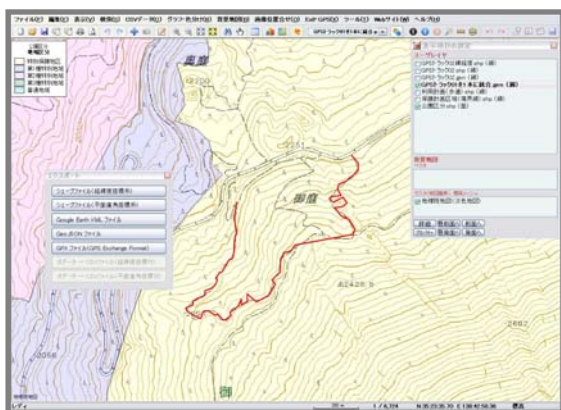
「編集」から「線の結合」を選択し、先の結合点上でクリックします。これでデータとしても 1 本の線に統合されます。

「選択」で統合した線を選択、統合化されて 1 本分として色が変わったこと確認してみてください。この状態で「ファイル」より「編集レイヤを上書き保存」または「編集レイヤを名前を付けて保存」すれば、統合されたファイルで保存できます。



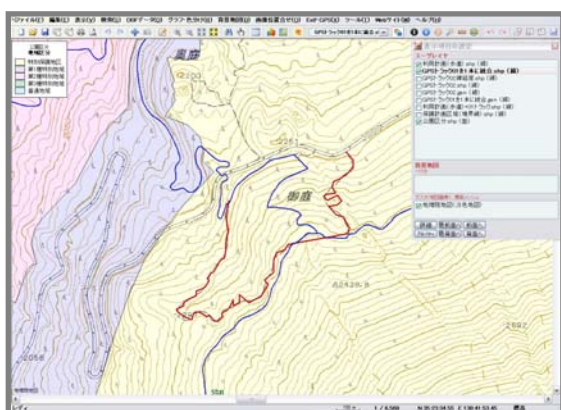
### ③登山道レイヤへの統合

・基本的事項として本業務で作成した、登山道レイヤ「利用計画（歩道）ファイル」は、シェープファイル形式です。一方、GPS からの GPX 形式ファイルは、読み込んだ際、地図太郎形式（gen 形式）でのみ保存可能です。異形式ファイル間での、クリップボード経由の統合は不可能です。そこで、登山道レイヤ「利用計画（歩道）ファイル」に統合するためには、地図太郎形式（gen 形式）で保存されている GPS のファイルをシェープファイル形式への変換が必要となります。



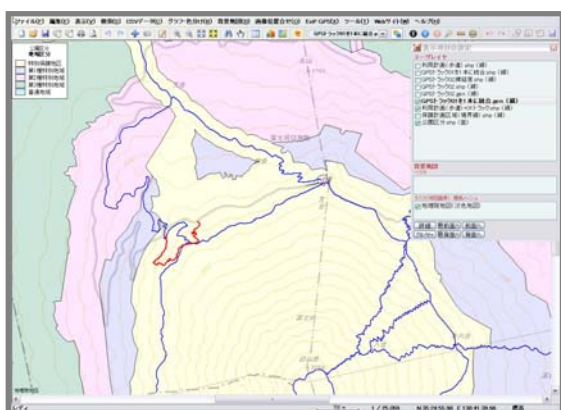
はじめに、ファイル変換です。

「編集レイヤの選択」で統合したい GPX データの入っているファイル選択後、「ファイル」から「他形式で編集レイヤを書き出し」を選択し、用途に応じて「シェープファイル」のどちらかを選択し、名前を付けて保存します。



地図太郎に統合に関する複数のシェープファイルをユーザレイヤに読み込みます。

ここでは、統合元は、はじめに変換して作成した「GPS トラック 01 を 1 本に統合.shp」赤線として、統合先として登山道の含まれる「利用計画（歩道）.shp」青線として読み込んだ例です。



①複数の GPX データの統合（複数ファイル間での統合）の手順を進めます。

統合後の編集ファイルの保存は、「ファイル」より「編集レイヤを名前を付けて保存」にして、別名で保存してください。登山道の含まれる「利用計画（歩道）.shp」を書き換えないためです。

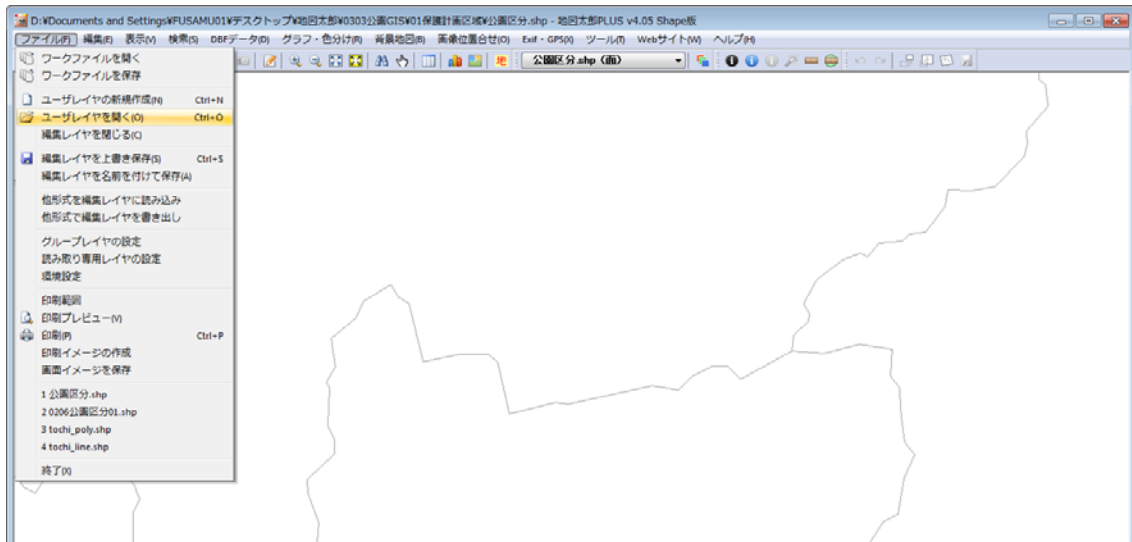
左は登山道の含まれるファイルに GPX ファイルを統合した 1 個のファイルの表示例です。



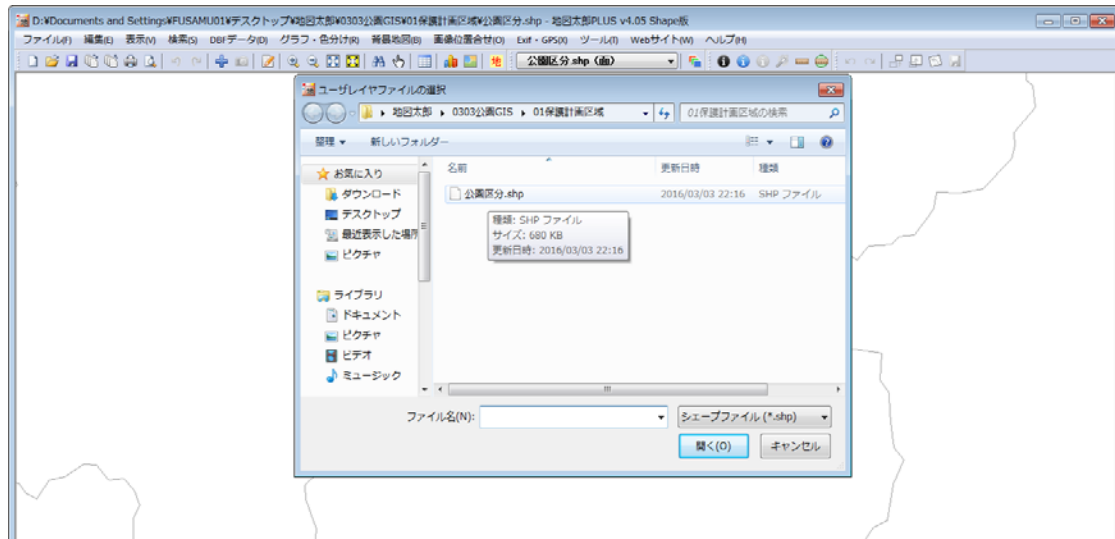
#### (4) 区域線の正確さを確認

- 複数の地図情報(レイヤー)を開き、重ねて確認する  
～公園計画図・林班図・地理院地図の場合～ ※□はボタンを表したもの

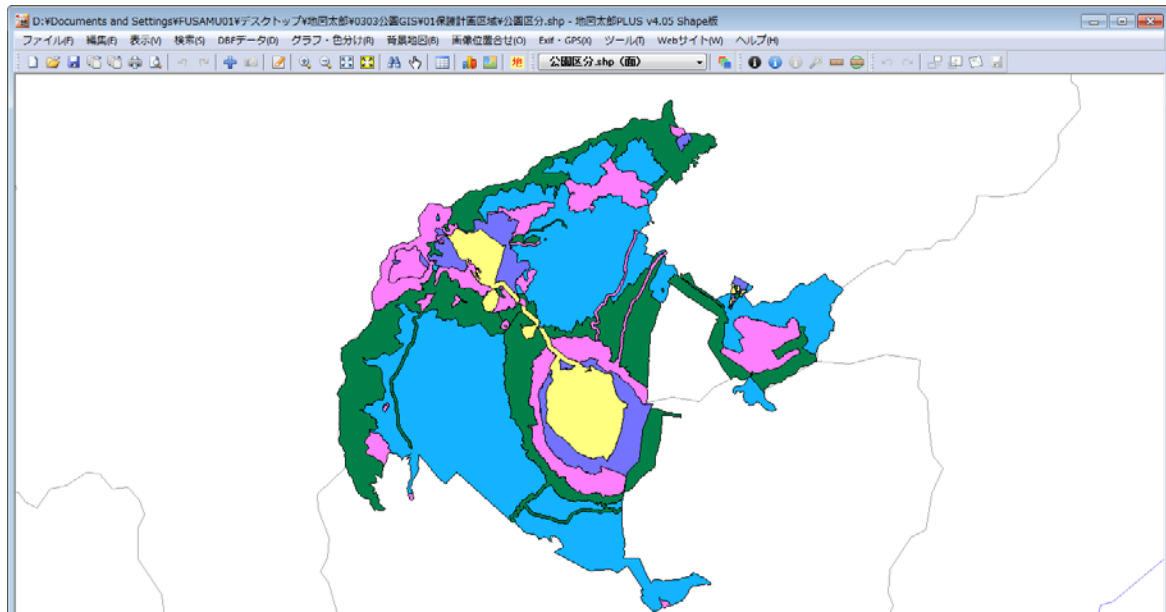
「ファイル」の「ユーザーレイヤ」を開く



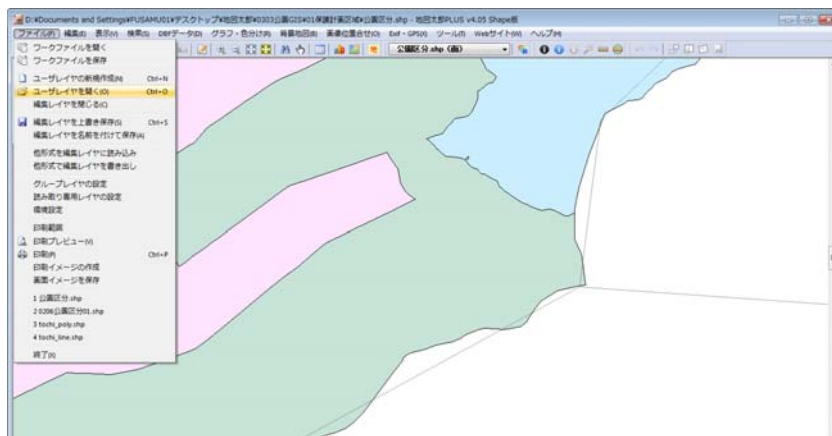
公園計画図 SHP ファイルを開く



公園計画図を開いた状態

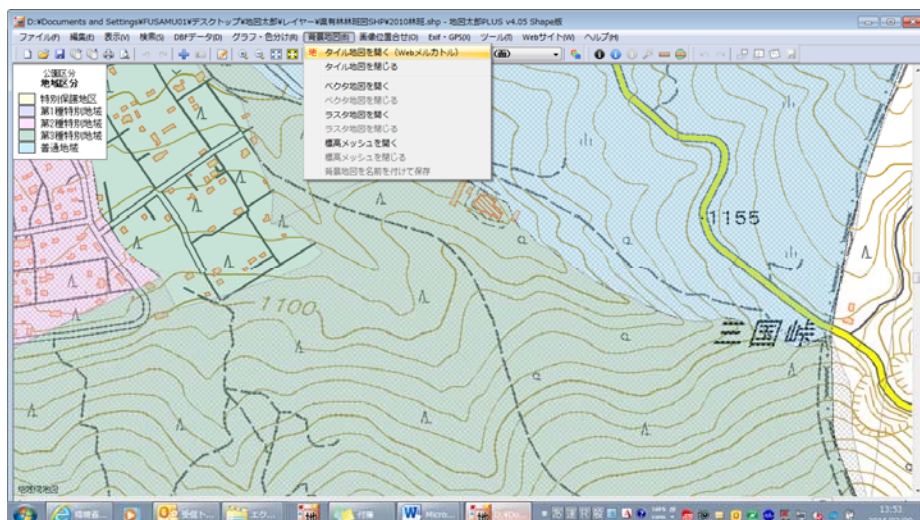


公園計画図の内拡大したい場所を拡大し、公園計画図と同様に林班図を開く

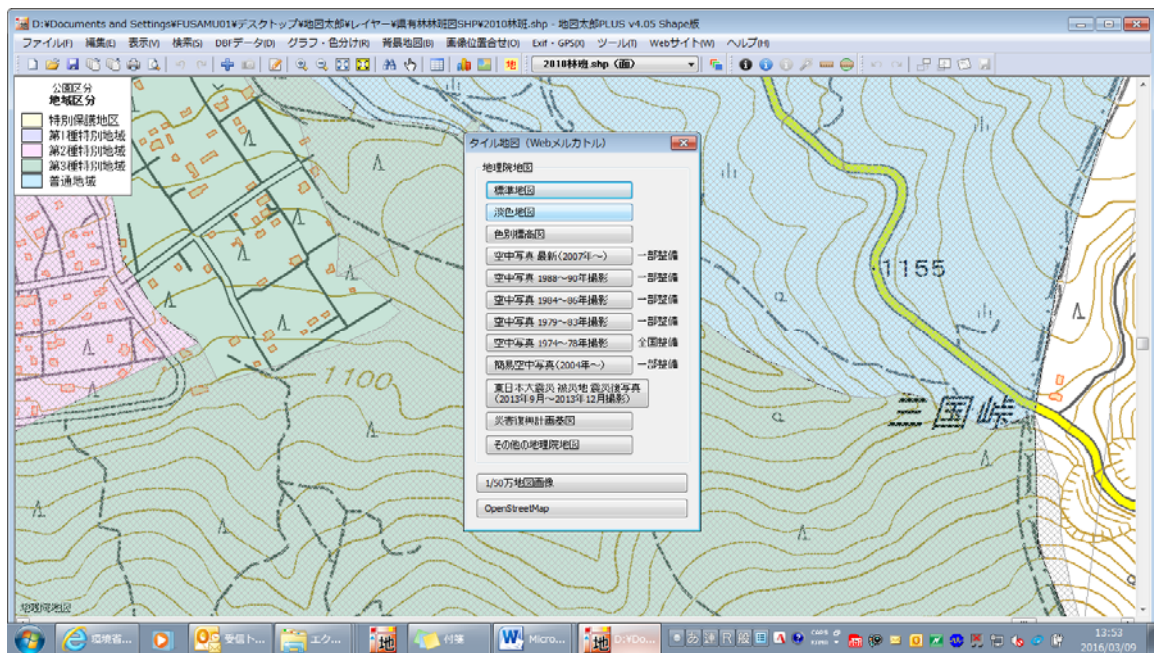


地理院地図を開く

「背景地図」 「タイル地図(Webメルカトル)」

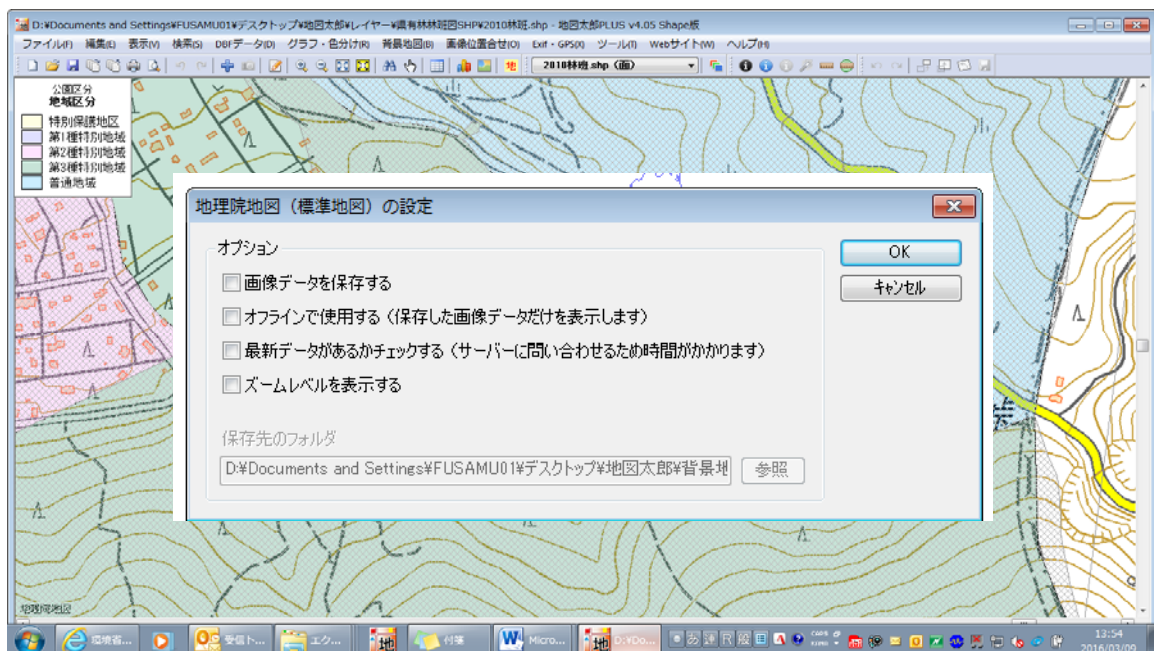


「標準地図」を選択



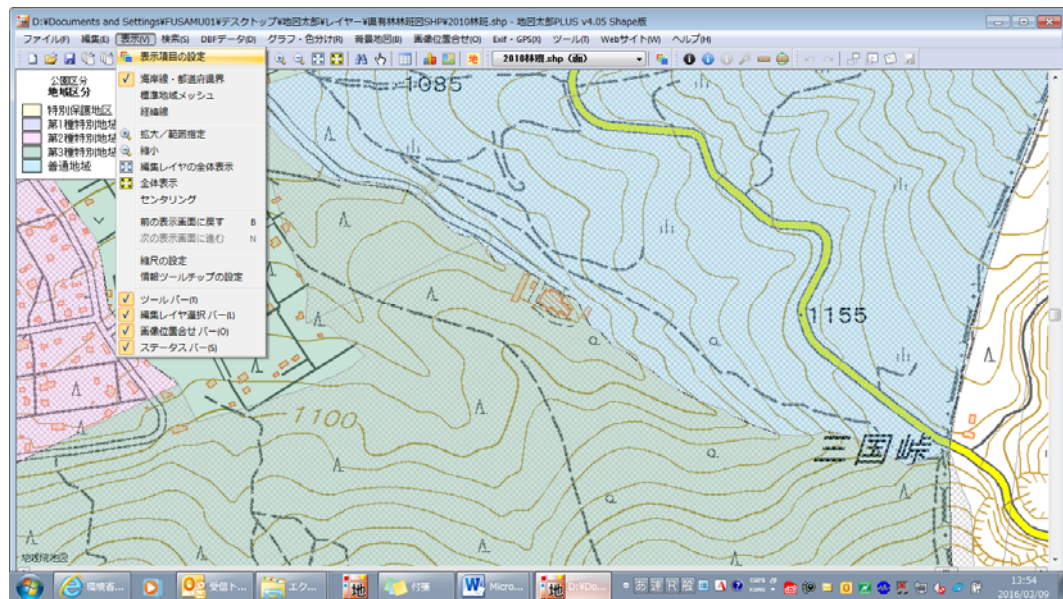
オプションの内 「画像データを保存」を選択

※同じ場所をもう一度見る場合、指定フォルダに保存した地図を自動的に読み込むので、素早く見ることが可能(その場合はオフラインで使用するを選択)

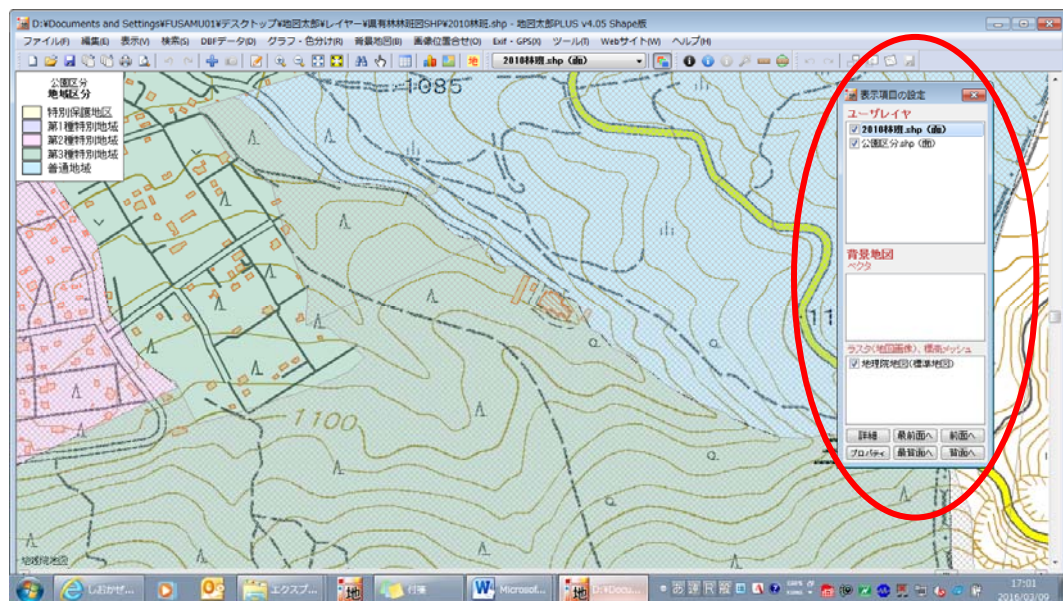




地図を一時的に表示したり消したりする場所を作る  
「表示」の「表示項目の設定」

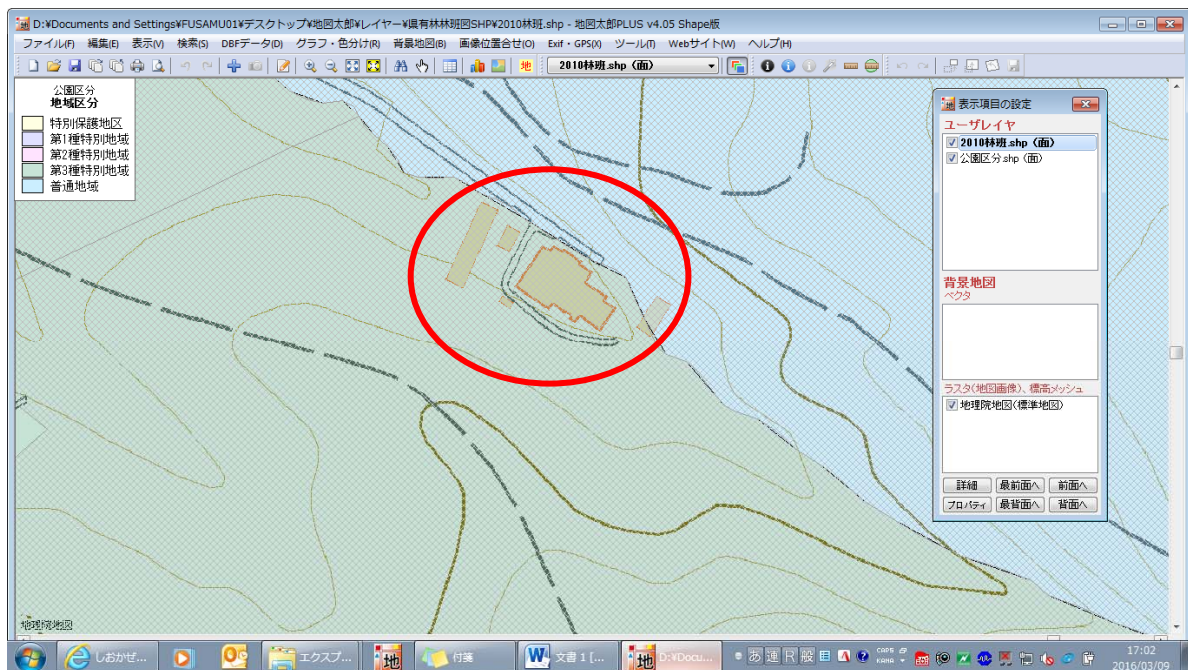


表示項目の設定ボックス表示された状態



建物付近の地種区分を確認する。

(○の中の建物は、緑色なので第3種、林班の境で分かれていることが確認できる。)



以上

## 別添

「ユーザーズガイド（2015. 10. 22 版）」より抜粋資料

- ① 上巻 10～12 ページ
- ② 下巻 45～46 ページ



## 1. 4 基本的な設定

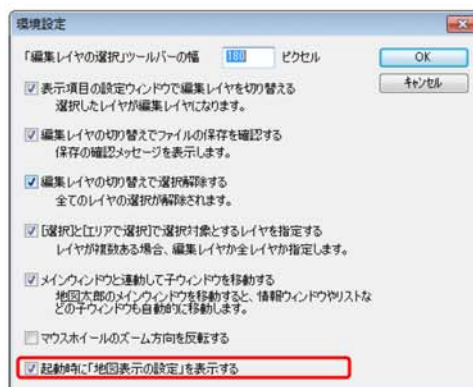
### 1. 4. 1 地図表示の設定

起動時に「地図表示の設定」ダイアログが表示されます。  
通常は、「WebMercator 投影法による表示」を選んでください。

次回起動時にこのダイアログを非表示にするには、「起動時に「地図表示の設定」を表示する」のチェックを外します。



「地図表示の設定」の表示は【ファイル】→【環境設定】で変更できます。  
変更後、「地図太郎 PLUS」「地図太郎 PLU Shape 版」再度起動して、「地図表示の設定」の設定を行います。



※広範囲（2 次メッシュ 1 つより広い）の地図画像データを背景にする場合ご注意ください。

- ①「Web Mercator 投影法による表示」で起動した場合は、メルカトル図法の画像を背景に読み込んでください。但し、位置情報は経緯度に限りです。
- ②正規化された経緯度の画像は、起動時に「地図太郎と同じ表示」で起動して、背景に読み込んでください。

上記以外の組み合わせで読み込むと、南北の比率が異なり、画面上では、実際の位置よりずれが生じます。

## 1.4.2 ワークファイルの関連付け

インストール直後にしておくとも便利です。

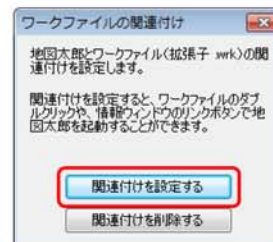
関連付けをすると、ワークファイルのダブルクリックで「地図太郎 PLUS」「地図太郎 PLUS Shape 版」の起動と設定されたレイヤの読み込み等が行えます。

※ワークファイル・・・レイヤの組み合わせや、画面の表示範囲等の情報を保存するファイルです。

- ①メニューバーより【ツール】→【ワークファイルの関連付け】を選びます。



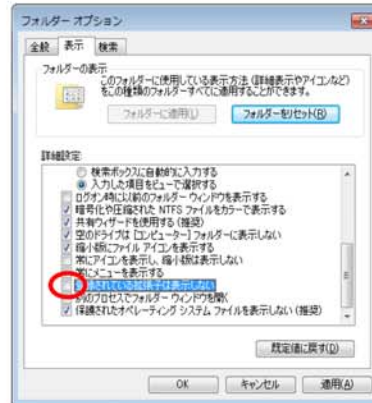
- ②「関連付けを設定する」をクリックします。



### 1.4.3 Windows のファイルの拡張子の表示

「地図太郎 PLUS」は様々なファイルを利用します。フォルダーオプションの設定で拡張子を表示させ一目でファイルの種類が分かるように Windows OS を設定しておきます。

- ①「コントロールパネル」を開き「フォルダーオプション」をクリックします。
- ②「表示」タブをクリックします。
- ③「登録された拡張子は表示しない」のチェックを外します。



### 1.5 整理整頓

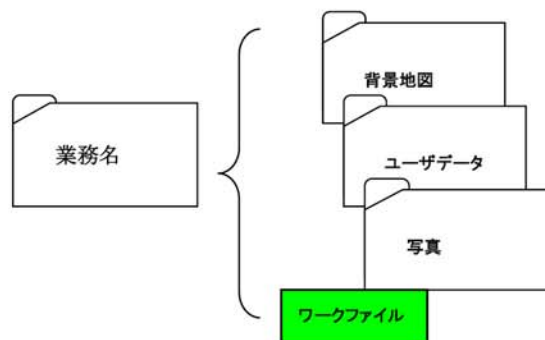
GIS ソフト(地図太郎 PLUS 等)での作業は、取り扱うファイルが多数になります。業務ごとにフォルダを作成して、その中にデータを保存するフォルダを作り整理整頓すると便利です。

図のような「業務名」フォルダごと他のパソコンに移動しても、地図太郎のインストールされたパソコンであればすぐに利用できます。ワークファイルは「業務名」フォルダ内に保存します。

ワークファイル内では相対パスでファイルの位置が記載されます。

必ず、「業務名」フォルダごとバックアップを取ります。

※ワークファイルに関しての詳細は下巻の手順 6・1 「(4) ワークファイルの保存」を参照してください。





## 手順5 印刷する、画像を保存する。

表示されている画面のイメージをそのまま印刷したり、画像として保存して Word や Excel に貼り付けて、提案書や報告書に使用することができます。

「地図太郎 PLUS」は、高画質印刷、縮尺指定印刷、分割出力、大判出力に対応します。画像を背景とした印刷の場合、元の画像の持つ解像度を再現します（高画質印刷）。

背景地図として使用している地図、ユーザレイヤに取り込んだデータの利用規約、契約にしたがってご利用ください。

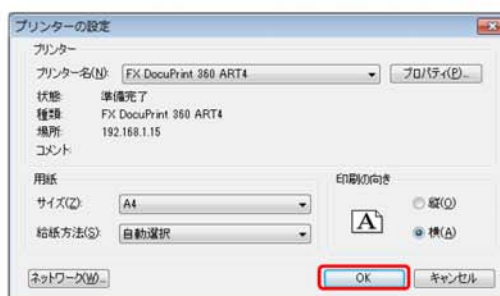
（例 印刷サイズの制限、利用自体の制限がある場合があります。）

### （1）印刷する【ファイル】

①メニューバーから【ファイル】→【印刷】を選択します。「印刷設定」ダイアログが表示されます。

「プリンタの設定」をクリックしてダイアログを表示します。

プリンタの選択、用紙サイズ、印刷の向きを設定し、「OK」をクリックします。



②該当するラジオボタンを選びます。



**1ページに印刷**

プリンタの用紙サイズに合わせて1枚に印刷されます。

**指定の縮尺で印刷**

縮尺指定コンボボックスのプルダウン▼から縮尺を指定します。



カーソルをコンボボックス上にのせてクリックすると直接数値を入力できます。入力後[Enter]キーまたは[Tab]キーを押して確定します。



プリンタの用紙サイズにより1ページ、あるいは、複数ページに分かれて印刷します。

印刷時にページ番号を選ぶと1枚だけの印刷も可能です。

**画面のハードコピーと同品質の印刷**

「地図太郎」と同様のスケール、4隅の経緯度付印刷となります。

印刷の品質は画面の解像度に依存します。

スケールバー（ツールメニューで作成したもの）は印刷されません。



③「印刷設定」ダイアログの「印刷」ボタンを押して印刷します。

「印刷プレビュー」ボタンを押すとプレビュー表示ができます。

**<重要>印刷設定時の注意**

大判、分割出力時に、情報ウィンドウを含む印刷の場合、情報ウィンドウのサイズ、内容の文字サイズは小さく設定してください。印刷して確認するか、または、印刷プレビューで確認して調整してください。

平成 27 年度 富士箱根伊豆国立公園富士山地域公園計画点検基礎情報収集業務

報 告 書

平成 28 (2016) 年 3 月

発注者：環境省関東地方環境事務所

請負者：ソシオエンジニアリング株式会社

担当者：東京事務所 tel:03-6661-9747

池田達男 t\_ikeda@sweet.ocn.ne.jp

リサイクル適正の表示：印刷用の紙へリサイクルできます。この冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔A ランク〕のみを用いて作製しています。